

北東北植物分布図—セリ目植物—

阿部裕紀子*・藤原陸夫**

On the Distribution of Vascular Plants in Northern Tohoku, Japan — Order *Apiales* —

Yukiko Abe and Rikuo Fujiwara

1 はじめに

先の報告「北東北植物分布図について」(阿部・藤原 2011)において、植物分布図のもつ意義および日本における現状や区系区分等を述べた。さらに、北東北植物分布図作成の調査地域、調査方法等を記述した。また、北東北所産のいくつかの種類について分布図の具体例を示した。

この報告で、分布図の作成は、地理的にまとまっている広範な地域を対象とした全域的な調査、豊富なデータ量とそれに伴う充実したデータによることの重要性を強調した。

著者らはその後も調査を継続しており、今回はその成果の一部として、北東北所産の Order *Apiales* セリ目植物の分布図を作成した。

本稿執筆に際し、分布図 50～100 図 (50～100 種類) 掲載を想定し、該当する複数の分類群に検討を加えた。その結果、主に次の理由によって、北東北に野生する 3,000 種類を超える維管束植物 (藤原・阿部 2010) の中からセリ目植物を選出した。

セリ目植物は、北東北では春季から秋季の間、野外調査においてほとんどの種類の識別が可能で、データ収集が比較的容易であり、集積データがある程度充実していることによる。また、小型の草本植物から大形の木本植物まで存在し、生活型が多様であること、さらに、海岸から高山帯まで、草原や森林、林縁など様々な環境に生育していることによる。

セリ目植物は、APG 分類体系によれば、7 科が属し、日本には *Araliaceae* ウコギ科, *Pittosporaceae* トベラ科, *Apiaceae* セリ科の 3 科を産する (大場 2009)。北東北には 3 科 84 種類 (亜種, 変種, 品種, 帰化植物, 植栽植物を含む) が記録されている (藤

原・阿部 2010)。

北東北におけるフロラの概要および調査範囲、調査方法については先の報告と重複するため省略し、調査地位置図 (図 1) を再掲するにとどめた。図 2 以降の記号●は、標本や野外記録など著者らの確認による場合、記号○は文献調査による記録を表しており、同一区画や同一高度範囲に両者が存在する場合は前者を優先している。

2 調査結果

2011 年末の集計では、調査実施済みの区画数は 1,713 個、全体の約 94% に相当する (図 2)。収集した水平分布データの総数は 814,725 件、海拔高度データ数は 538,503 件である。この中でセリ目植物の水平分布データ数は 31,881 件、その海拔高度データ数は 21,745 件を数える。

セリ目植物について、72 種類 (自生植物 66 種類、帰化植物・植栽植物 6 種類、ただし変種以上) の分布図を作成した (図 3～図 74)。また個別の植物について、簡単な生活型、生育地、北東北における分布の様態、国内および国外の分布について記述している。配列の順序と科名および植物名は、北東北維管束植物チェックリスト第 2 版 (藤原・阿部 2010) に従い、植物名には再検討を加え、一部を修正した。なお、著者らが未確認の帰化植物、ごく軽微な差異による品種、逸出植物の一部などは除いている。

現時点において、下北半島は現地調査が他地域にくらべ十分ではなく、図 2 に示したように調査空白の区画が多い。したがって、各種類の分布図や分布に関わる記述は、下北半島については不明確である。

*秋田県立博物館 **秋田植生研究会



図1 調査地位置 1 : 20,000,000

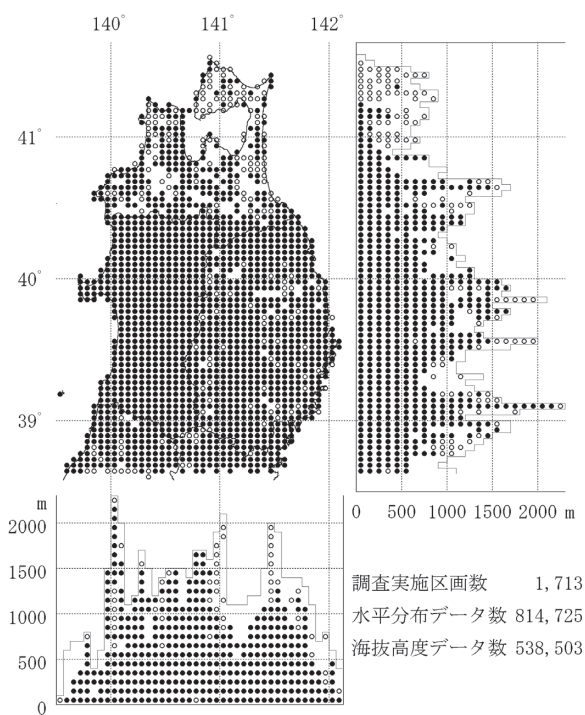


図2. 調査実施区画 1 : 6,000,000

[1] Araliaceae ウコギ科

(1) *Aralia cordata*

ウド (図3)

大型多年草。山地の林縁や崩壊地などに生育する。全域に普遍的に分布している。

分布：北海道，本州，四国，九州—朝鮮，中国，樺太。

(2) *Aralia elata*

タラノキ (図4)

夏緑亜高木。タラノキクマイチゴ群集標徴種。山地の林縁や伐採跡地などに生育する。全域に普遍的に分布している。品種 form. *subinermis* メダラは本種にまとめている。

分布：南千島，北海道，本州，四国，九州—千島列島，樺太，朝鮮，中国，アムール，ウスリー。

(3) *Chengiopanax sciadophylloides*

コシアブラ (図5)

夏緑高木. ブナクラス (夏緑広葉樹林) 標徴種. 山地から亜高山帯に生育する. 普遍的に分布しているが, 一部, 北上高地の北部を中心に分布の疎らな地域が存在している.

分布: 北海道, 本州, 四国, 九州—日本固有.

(4) *Dendropanax trifidus*

カクレミノ (図6)

常緑亜高木. ヤブツバキクラス (常緑広葉樹林) 標徴種. 北東北では, 沿岸部のクロマツ植林, 内陸では低地のコナラ二次林, スギ植林などの林内でまれに観察されるが, 庭木など植栽品の逸出と考える.

分布: 本州 (関東以西), 四国, 九州, 琉球—台湾, 朝鮮南部.

(5) *Eleutherococcus divaricatus*

ケヤマウコギ (図7)

夏緑低木. 山地の林内に生育する. 広域的な分布を示しているが, 部分的に分布の疎密や空白域が存在し, 地域によっては普遍的でない.

分布: 北海道, 本州, 四国, 九州—中国.

(6) *Eleutherococcus sieboldianus*

ヒメウコギ (図8)

夏緑低木. 中国原産で, 食用および生垣として人家に植栽され, また野生状態で生育している.

(7) *Eleutherococcus spinosus*

ヤマウコギ (図9)

夏緑低木. 山地の適潤地に生育する. 海拔高度600m付近まで分布しているが, 北上高地の中北部, 出羽山地, 白神山地の周辺などに分布の空白域がある. とくに北東北の北部ではほとんど分布を欠き, 普遍的な分布ではない.

分布: 本州—日本固有.

(8) *Fatsia japonica*

ヤツデ (図10)

常緑低木. ヤブツバキクラス (常緑広葉樹林) 標徴種. 主に近海地に生育する. 北東北の分布は大部分が植栽品の逸出によると考えられるが, 三陸沿岸南部の所産については自生品の可能性がある.

分布: 本州 (福島県以南の太平洋側), 四国, 九州, 琉球—日本固有.

(9) *Gamblea innovans*

タカノツメ (図11)

夏緑高木. 山地の尾根状地に生育する. 奥羽山脈とその周辺山岳, および三陸沿岸部では密に分布しているが, 日本海側の沖積地など分布が疎らな地域がある. 津軽半島, 下北半島, 男鹿半島には記録されていない.

分布: 北海道, 本州, 四国, 九州—日本固有.

(10) *Hedera rhombea*

キツタ (図12)

常緑藤本. ヤブツバキクラス (常緑広葉樹林) 標徴種. 丘陵地から山地に生育する. 気候的に温暖な沿岸部に集中して分布している. また内陸側にも見られ, とくに北上川低地帯に沿った分布が著しい.

分布: 本州, 四国, 九州, 琉球—台湾, 朝鮮南部.

(11) *Hydrocotyle maritima*

ノチドメ (図13)

多年草. 低地の水湿地, 水田畦に生育する. 全体的に記録が少なく, とくに北部では稀である.

分布: 本州, 四国, 九州, 琉球, 小笠原—朝鮮, 中国.

(12) *Hydrocotyle ramiflora*

オオチドメ (図14)

多年草. 低地から山地の水田畦や草地に生育する. 全域に普遍的に分布する. 海拔高度1,000mを超えて見られるが, 放牧など人為の影響が考えられる.

分布: 北海道, 本州, 四国, 九州—朝鮮.

(13) *Hydrocotyle sibthorpioides*

チドメグサ (図 15)

常緑多年草。低地の庭園および人里の陰地などに生育する。記録された産地は少なく稀である。高海拔地の文献記録は再検討を要する。

分布：北海道（渡島），本州，四国，九州，琉球，小笠原—アジアの暖・熱帯，オーストラリアなどに広く分布する。

(14) *Hydrocotyle yabei*

ヒメチドメ (図 16)

多年草。低地から山地の路傍などに生育する。記録された産地は少なく，北部には広く分布空白域がある。

分布：本州，四国，九州—日本固有。

(15) *Kalopanax septemlobus*

ハリギリ (図 17)

夏緑高木。山地に生育する。全域に普遍的に分布する。品種 form. *maximowiczii* ケハリギリは本種にまとめている。

分布：南千島，北海道，本州，四国，九州—朝鮮，中国，千島列島，樺太，ウスリー。

(16) *Oplopanax japonicus*

ハリブキ (図 18)

夏緑低木。亜高山帯の針葉樹林内に生育する。奥羽山脈をはじめ各地の山岳地帯に分布している。通常は亜高山帯に生育しているが，北東北では山地帯まで下降している。

分布：北海道，本州（北中部，大峰山系），四国—日本固有。

(17) *Panax japonicus*

トチバニンジン (図 19)

多年草。山地林内に生育する。広域的に分布するが，北上高地をはじめ太平洋側には少なく，とくに三陸沿岸部には広い空白域がある。品種 form. *dichrocarpus* ソウシヨウニンジン本種にまとめている。

分布：北海道，本州，四国，九州—日本固有。

[2] Pittosporaceae トベラ科

(18) *Pittosporum tobira*

トベラ (図 20)

常緑低木～亜高木。海岸風衝地に生育する。トベラ—ウバメガシ群集およびマサキ—トベラ群集標徴種。三陸沿岸南部に分布している。一方，日本海側の記録は定着したものではないが，自然の状態で見出されたものであり，近年の鳥散布による可能性も考えられる。内陸部の文献記録は再検討を要する。

分布：本州（岩手県および新潟県以南），四国，九州，琉球—朝鮮南部，台湾，中国。

[3] Apiaceae セリ科

(19) *Aegopodium alpestre*

エゾボウフウ (図 21)

多年草。山地林内に生育する。各地に分布の空白域が存在している。本種のような北方系の山地生植物が，とくに本州北端部において広く分布を欠くことは注目される。

分布：南千島，北海道，本州（中部以北）—北朝鮮，中国，樺太，千島列島，東シベリア，アルタイ。

(20) *Ammi majus*

ドクゼリモドキ (図 22)

1～2年草。南ヨーロッパ原産の帰化植物。山形県に文献記録がある。

(21) *Angelica acutiloba* subsp. *acutiloba*

トウキ (図 23)

多年草。薬草としての植栽品が逸出している。

分布：本州（関東）—日本固有。

(22) *Angelica acutiloba* subsp. *iwatensis*

ミヤマトウキ (図 24)

多年草。山地から高山帯の岩石地に生育する。下北半島，白神山地，出羽山地，奥羽山脈，丁岳山地などに分布し，やや日本海側に記録が多い。

分布：北海道，本州—日本固有。

(23) *Angelica decursiva*

ノダケ (図 25)

多年草。ノダケ－ゴマナ群落区分種。丘陵地や山地のやや湿性の草地、林縁などに生育する。沿岸部や沖積地などの温暖な地域を中心に分布している。北東北の北東部には記録されていない。

分布：本州，四国，九州－朝鮮，中国，東シベリア。

(24) *Angelica edulis*

アマニユウ (図 26)

多年草。山地の草地や林縁などに生育する。広く分布するが、北上川、雄物川などの沖積地では分布がやや疎らな傾向にある。

分布：北海道，本州（中部以北）－樺太？

(25) *Angelica genuflexa*

オオバセンキュウ (図 27)

多年草。ノダケ－ゴマナ群落区分種。山地の溪流辺など水湿地に生育する。白神山地、奥羽山脈、北上高地および岩木山や鳥海山など山岳地帯の周辺に分布しており、とくに北東北の中央部に密な分布域が存在している。

分布：南千島，北海道，本州（中部以北）－千島列島，樺太，カムチャツカ，北米。

(26) *Angelica inaequalis*

ハナビゼリ (図 28)

多年草。山地の林内および林縁に生育。太平洋側に分布が偏在している。日本海側および北部では記録されていない。

分布：本州，四国，九州－日本固有。

(27) *Angelica polymorpha*

シラネセンキュウ (図 29)

多年草。山地の溪側に生育する。北東北では太平洋側の南部に多い。北部の文献記録については、類似種（例えば *Conioselinum filicinum* ミヤマセンキュウなど）との誤認の可能性があり再検討を要する。

分布：本州，四国，九州－朝鮮，中国北東部。

(28) *Angelica pubescens*

シシウド (図 30)

多年草。山地の草原などに生育する。太平洋側で局所的に確認されている。北部の文献記録については、類似種（例えば *Angelica ursina* エゾニユウなど）との誤認の可能性があり再検討を要する。

分布：本州，四国，九州－日本固有。

(29) *Angelica sachalinensis*

エゾノヨロイグサ (図 31)

多年草。山地および亜高山帯の草原などに生育する。太平洋側に分布の主体があるが、三陸沿岸部には空白域があり全域的ではない。日本海側では奥羽山脈の西側および鳥海山周辺にまとまった分布をしている。

分布：北海道，本州－朝鮮，中国（北部，北東部），樺太，東シベリア。

(30) *Angelica ursina*

エゾニユウ (図 32)

多年草。海岸から亜高山帯の草原や林縁等に生育する。地方によって普通に産し、若い葉柄を重要な山菜として利用している。北東北では日本海側に偏在的な分布をしており、見かけ上の日本海要素を想わせる。太平洋側の文献記録の一部は、類似種との誤認の可能性があり再検討を要する。

Angelica sachalinensis var. *glabra* ミチノクヨロイグサ (山崎 1986) は、*Angelica matsumurae* var. *glabra* ケナシミヤマシシウドとされていたものを *Angelica sachalinensis* エゾノヨロイグサの変種として記載された植物である。しかし著者らは、ミチノクヨロイグサはエゾニユウの synonym が妥当と考えている。

また、結城 (1992) は *Angelica pubescens* var. *matsumurae* ミヤマシシウドの産地として鳥海山、神室山などを記録しているが、このミヤマシシウドとした植物はエゾニユウの誤認と考えられる。

北東北においては、やや形質が類似した大形の本属植物として、シシウド、エゾノヨロイグサおよびエゾニユウが分布している。しかし、一部の標本庫や文献では、これら 3 種の識別が混乱しているように見受けられる。花序の外観とともに葉

の形質を注意深く観察すれば、区別は困難ではない。

分布：南千島，北海道，本州（中部以北）—千島列島，樺太，カムチャツカ，東シベリア。

(31) *Anthriscus scandicina*

ノハラジャク（図 33）

1～2年草。ヨーロッパ原産の帰化植物。数箇所記録されている。

(32) *Anthriscus sylvestris*

シヤク（図 34）

多年草。山地の陰湿地，林縁に生育する。広域的であるが，内陸部には分布の空白域が存在している。

分布：南千島，北海道，本州，四国，九州—朝鮮，中国，千島列島，樺太，カムチャツカ，シベリア，コーカサス，東ヨーロッパ。

(33) *Bupleurum longiradiatum* var. *elatus*

ホタルサイコ（図 35）

多年草。山地の草地に生育する。広域的であるが，普通品ではない。日本海側では主に沿岸部に分布している。

分布：南千島，北海道，本州，四国，九州—千島列島，樺太。

(34) *Bupleurum nipponicum*

ハクサンサイコ（図 36）

多年草。普通は高山の草地や岩石地，稀に低海拔地の岩上に生育する。日本海側に偏在的で白神山地，奥羽山脈，丁岳山地などに分布している。

分布：本州（中部以北）—日本固有。

(35) *Chamaele decumbens*

セントウソウ（図 37）

多年草。山地の林内に生育する。太平洋側では北上高地を中心に沿岸部まで密に分布している。一方，日本海側では広い分布空白域が存在し，とくに北部ではほとんど分布が欠落している。

分布：北海道，本州，四国，九州—日本固有。

(36) *Cicuta virosa*

ドクゼリ（図 38）

多年草。ヨシクラス標徴種。低地から山地の水辺や湿地に生育する。広域に分布するが点的である。

分布：北海道，本州，四国，九州—朝鮮，中国，シベリア，ヨーロッパ，北米。

(37) *Cnidium japonicum*

ハマゼリ（図 39）

2年草。海岸のやや湿った砂地や岩上などに生育する。海岸のほとんど全域に記録されている。

分布：北海道，本州，四国，九州，琉球，小笠原—朝鮮，中国。

(38) *Coelopleurum gmelinii*

エゾノシシウド（図 40）

多年草。海岸などの草地に生育する。北東北では太平洋側の北部海岸に局所的に分布している。

分布：南千島，北海道，本州（北部）—千島列島，樺太，オホーツク沿岸，カムチャツカ，アラスカ，北米（西部）。

(39) *Conioselinum chinense* var. *chinense*

ミヤマセンキュウ（図 41）

多年草。山地から亜高山の溪流周辺，林縁，高茎草原などに生育する。山岳地帯を中心に海拔高度 100m 未満の低海拔地から 2,100m 以上の高山帯まで分布しており垂直分布の幅が大きい。沖積平野を除き全域的に分布している。

分布：南千島，北海道，本州（中部以北）—中国，カナダ，北米。

(40) *Conioselinum chinense* var. *gmelinii*

カラフトニンジン（図 42）

多年草。海岸の草地に生育する。太平洋沿岸や日本海の北部沿岸の主として岩石海岸に分布している。一方，内陸側山地で数箇所の産地が確認されている。学名は検討を要する。

分布：南千島，北海道，本州（北部）—千島列島，樺太，カムチャツカ，東シベリア，アラスカ。

(41) *Cryptotaenia canadensis* subsp. *japonica*

ミツバ (図 43)

多年草。低地から山地の林縁、藪地に生育する。全域に普遍的に分布している。

分布：南千島、北海道、本州、四国、九州、琉球—千島列島、樺太、朝鮮、台湾、中国。

(42) *Daucus carota*

ノラニンジン (図 44)

多年草。ヨーロッパ原産の帰化植物。セリ科の帰化植物としては広い範囲で記録されている。

(43) *Dystaenia ibukiensis*

セリモドキ (図 45)

多年草。山地の林縁などに生育する。北東北では日本海沿岸寄りに偏在的に分布しており、植物区系上の日本海要素を想わせる。

分布：本州—日本固有。

(44) *Glehnia littoralis*

ハマボウフウ (図 46)

多年草。ハマボウフウクラス (海岸砂丘草原) 標徴種。海岸の砂地に生育する。海岸砂丘のほとんど全域に記録されている。

分布：南千島、北海道、本州、四国、九州、琉球—朝鮮、台湾、中国、千島列島、樺太、ウスリー、オホーツク沿岸、北米 (西部)。

(45) *Heracleum lanatum*

オオハナウド (図 47)

多年草。山地の草地や林縁などに生育する。広く分布するが、部分的に疎らな地域がある。

分布：南千島、北海道、本州—千島列島、樺太、カムチャツカ、アリューシャン、アラスカ。

(46) *Libanotis ugoensis* var. *alpicola*

タカネイブキボウフウ (図 48)

多年草。高山の岩石地に生育する。北東北では 1 箇所が記録されている。

分布：本州 (中部以北)—日本固有。

(47) *Libanotis ugoensis* var. *japonica*

イブキボウフウ (図 49)

多年草。山地の草地や林縁に生育する。北東北では太平洋側の分布密度が大きい。

分布：南千島、北海道、本州、四国—朝鮮南部。

(48) *Libanotis ugoensis* var. *ugoensis*

ハマイブキボウフウ (図 50)

多年草。海岸の草地や岩石地に生育する。岩石海岸に分布している。

分布：北海道、本州 (近畿以東)—日本固有。

(49) *Ligusticum scoticum* subsp. *hultenii*

マルバトウキ (図 51)

多年草。海岸の草地などに生育する。太平洋沿岸および津軽半島に分布している。

分布：南千島、北海道、本州 (北部)—朝鮮、ウスリー、樺太、千島列島、オホーツク沿岸、カムチャツカ、アラスカ、カナダ。

(50) *Oenanthe javanica*

セリ (図 52)

多年草。セリ—クサヨシ群集標徴種。低地から山地の水田や溝などの水辺に生育する。やや普遍的に分布している。

分布：北海道、本州、四国、九州、琉球—朝鮮、中国、台湾、マレーシア、インド、クイーンズランド。

(51) *Osmorhiza aristata* var. *aristata*

ヤブニンジン (図 53)

多年草。丘陵地から山地の林内に生育する。やや普遍的に分布している。

分布：北海道、本州、四国、九州—朝鮮、中国、台湾、マレーシア、インド。

(52) *Osmorhiza aristata* var. *montana*

ミヤマヤブニンジン (図 54)

多年草。山地の林内に生育する。全域的に分布しているが、ヤブニンジンと比べ産地の記録は少ない。ヤブニンジンとは、葉の形質やフェノロジーに軽微な差異が認められるが、同一立地において

近接して生育することがある。

分布：南千島，北海道，本州（中部以北）—朝鮮，千島列島，樺太，アムール，ウスリー，コーカサス，シベリア。

(53) *Ostericum florentii*

ミヤマニンジン（図 55）

多年草。山地に生育する。下北半島に文献記録があるが、既知産地から遠く離れており再検討を要する。

分布：本州（中部，関東）—日本固有。

(54) *Ostericum sieboldii*

ヤマゼリ（図 56）

多年草。山地のやや湿った林縁等に生育する。分布はほぼ太平洋側に限られ、とくに北上高地を中心に沿岸部まで濃密な分布をしている。津軽半島の文献記録は類似種（例えば *Dystaenia ibukiensis* セリモドキなど）との誤認の可能性があるため再検討を要する。

分布：本州，四国，九州—朝鮮，中国（北部，北東部）。

(55) *Peucedanum multivittatum*

ハクサンボウフウ（図 57）

多年草。高山の高茎草原に生育する。奥羽山脈，早池峰山，鳥海山などに分布している。津軽半島の文献記録は海拔高度とともに注目される。

分布：北海道，本州（中部以北）—日本固有。

(56) *Peucedanum terebinthaceum*

カワラボウフウ（図 58）

多年草。丘陵地や山地の草地に生育する。太平洋側に偏在的に分布している。北上高地中央部には、高海拔地に文献記録があり注目に値する。

分布：北海道，本州，四国，九州—朝鮮，中国北東部，ウスリー，アムール，東シベリア。

(57) *Pleurospermum uralense*

オオカサモチ（図 59）

多年草。山地の草原に生育する。北上高地など太平洋側にまとまって分布する傾向にあるが、奥

羽山脈の一部および北部の沿岸に不連続的に点々と分布している。

分布：南千島，北海道，本州（中部以北）—朝鮮，中国，千島列島，樺太，カムチャツカ，シベリア。

(58) *Pternopetalum tanakae*

イワセントウソウ（図 60）

多年草。山地森林内の陰湿地に生育する。早池峰山など北上高地の一部に分布している。

分布：本州（岩手県，関東・中部以西），四国，九州—朝鮮，中国。

(59) *Sanicula chinensis*

ウマノミツバ（図 61）

多年草。丘陵地から山地の森林内に生育する。全域に普遍的に分布している。

分布：南千島，北海道，本州，四国，九州，琉球，小笠原—朝鮮，中国，千島列島，樺太南部，シベリア。

(60) *Sanicula kaiensis*

ヤマナシウマノミツバ（図 62）

多年草。山地の林内に生育する。最近になって北上高地において発見されている。

分布：本州（岩手県，関東，中部）—日本固有。

(61) *Sanicula rubriflora*

クロバナウマノミツバ（図 63）

多年草。山地の林内に生育する。北上高地北部周辺に分布が限られている。

分布：本州（岩手県，長野県など）—朝鮮，中国北東部，ウスリー，アムール。

(62) *Sium ninsi*

ムカゴニンジン（図 64）

多年草。低地から山地の湿地に生育する。広域に分布しているが、点在的である。

分布：北海道，本州，四国，九州—朝鮮，中国。

(63) *Sium serra*

タニミツバ (図 65)

多年草。山地林内の陰湿地に生育する。北上高地など太平洋側に偏在的に分布している。

分布：北海道，本州（中部以北）－日本固有。

(64) *Sium suave* var. *nipponicum*

ヌマゼリ (図 66)

多年草。低地の湿地に生育する。分布は少数の文献記録に限られている。

分布：北海道，本州，四国，九州－朝鮮，中国。

(65) *Sium suave* var. *suave*

トウヌマゼリ (図 67)

多年草。低地の湿地に生育する。分布は少数の文献記録に限られている。

分布：南千島，北海道，本州－朝鮮，中国，シベリア南部，欧州東部，北米。

(66) *Spuriopimpinella calycina*

カノツメソウ (図 68)

多年草。山地の林内に生育する。太平洋側では全体に分布しているが、日本海側では北部と南部に広い分布空白域が存在している。

分布：北海道，本州，四国，九州－日本固有。

(67) *Spuriopimpinella koreana*

ヒカゲミツバ (図 69)

多年草。山地の林内に生育する。下北半島に文献記録があるが、既知産地から遠く離れており再検討を要する。

分布：本州（関東以西），四国，九州－朝鮮。

(68) *Tilingia ajanensis*

シラネニンジン (図 70)

多年草。高山の草原に生育する。奥羽山脈、北上高地に属する山岳や鳥海山などの海拔高度 1,000m 以上で分布している。下北半島では海拔高度 500m 付近に文献記録があり注目される。品種 *form. pectinata* ホソバシラネニンジンとは本種にまとめている。

分布：南千島，北海道，本州（中部以北）－千

島列島，樺太，カムチャツカ，オホーツク沿岸，東シベリア。

(69) *Tilingia holopetala*

イブキゼリ (図 71)

多年草。山地から亜高山の草地や林縁に生育する。山岳地帯に分布し、奥羽山脈以西の日本海側に多い。日本海側では低海拔地から高山帯まで連続的に分布しており垂直分布の幅が大きい。一方、太平洋側では稀な植物で早池峰山周辺の高海拔地に限られている。

分布：北海道，本州（中部以北）－日本固有。

(70) *Tilingia tachiroei*

ミヤマウイキョウ (図 72)

多年草。高山の砂礫地に生育する。分布は早池峰山に限られている。

分布：北海道，本州（中部以北），四国（剣山）－朝鮮，中国

(71) *Torilis japonica*

ヤブジラミ (図 73)

2 年草。低地から山地の路傍や藪地に生育する。全域にやや普遍的に分布している。

分布：北海道，本州，四国，九州，琉球－アジア北東部，コーカサス，ヨーロッパ，アフリカ。

(72) *Torilis scabra*

オヤブジラミ (図 74)

2 年草。低地の草原や藪地に生育する。北東北では日本海側に少なく、北部では点的な分布である。

分布：本州，四国，九州，琉球－朝鮮南部，台湾，中国。

3. 考察

調査結果からは、北東北におけるセリ目植物の分布状態はきわめて多様であり、現状では明確な類型化を導き出すことは容易なことではない。しかし、一部の植物については分布図に示された分布の疎密の度合及び偏りから、ある程度の分布型を把握することができる。

3-1 水平分布

3-1-1 広汎型

全体に広く普遍的な分布を示す植物として、ウド、タラノキ、オオチドメ、ハリギリ、ミツバ、ウマノミツバの6種類があり、山地の林縁などに生育するものが多い。

広汎的に分布するが、地域によっては普遍的ではなく、部分的に疎らか、あるいは狭い分布空白域（全体の凡そ1/2未満）を示す植物として、コシアブラ、ケヤマウコギ、ヤマウコギ、トチバニンジン、アマニユウ、シャク、ミヤマセンキュウ、オオハナウド、セリ、ヤブニンジン、ヤブジラミの11種類がある。

また、広汎的であるが、全体に疎らか、あるいは広い分布空白域（全体の凡そ1/2以上）を示す植物として、タカノツメ、キツタ、ノチドメ、エゾボウフウ、オオバセンキュウ、エゾノヨロイグサ、ホタルサイコ、セントウソウ、ドクゼリ、イブキボウフウ、ミヤマヤブニンジン、オオカサモチ、ムカゴニンジン、カノツメソウなどがある。

3-1-2 偏在型

広汎的分布に対して、一定の方向に大きく偏った分布を示す偏在型の植物が存在する。

北東北では、東北地方の脊梁をなす奥羽山脈を境界として、東西方向に、太平洋側または日本海側にそれぞれ偏在して分布する植物が存在する。ここでの各側の呼称は、単に奥羽山脈を境界としたおおよその地勢的な区分であり、気候などその他の要素を反映したものではない。

太平洋側偏在型として、ハナビゼリ、ヤマゼリ、カワラボウフウ、イワセントウソウ、タニミツバがある。また、ヤマナシウマノミツバとクロバナウマノミツバは東北地方においても北上高地の一部に分布が限られ、ほとんど局在的な分布である。日本海側偏在型として、エゾニユウ、ハクサンサイコ、セリモドキが存在する。しかし、これらの日本海側偏在型を安易に区系地理的な日本海要素と考えることには疑問があり、今後、日本海要素の本質を十分に見極める必要がある。

また北東北において、南北方向にそれぞれ偏在して分布する植物がある。南方向に分布が偏るも

のには、トベラ、ノダケ、シラネセンキュウ、イワセントウソウなどがある。

一方で、北方地域に分布の中心があるエゾノシシウドは北東北を南限としている。

3-2 垂直分布

セリ目植物各種類の垂直分布は、概ね従来から想定されていた範囲内にあると考えられる。また、垂直分布の南北方向における高度変化を予想していたが、現在までのデータからは、とくに顕著な傾向を見出していない。

低海拔地である海岸や沿岸地域を主な生育域とする植物にはトベラ、ハマゼリ、エゾノシシウド、カラフトニンジン、ハマボウフウ、ハマイブキボウフウ、マルバトウキがある。

また、高海拔地を主な生育域とする植物には、ミヤマトウキ、ハクサンサイコ、タカネイブキボウフウ、ハクサンボウフウ、シラネニンジン、ミヤマウイキョウ、イブキゼリなどがある。

一部の植物は垂直分布の幅が大きく、植生帯を越えて低海拔地から山地帯上部さらには亜高山・高山帯まで分布している。

高度範囲の幅が1,000mを超える植物には、ウド、タラノキ、コシアブラ、ハリギリ、ハリブキ、トチバニンジン、エゾボウフウ、ミヤマトウキ、アマニユウ、オオバセンキュウ、エゾノヨロイグサ、エゾニユウ、シャク、ホタルサイコ、ハクサンサイコ、ドクゼリ、ミヤマセンキュウ、ミツバ、イブキボウフウ、ヤブニンジン、ミヤマヤブニンジン、オオカサモチ、ウマノミツバ、カノツメソウ、イブキゼリなどがある。とくにミヤマセンキュウとイブキゼリは、その幅が大きく、海拔高度100m前後の低海拔地から2,100m以上の高山帯までほぼ連続的に分布している。

またイブキゼリは、太平洋側と日本海側との比較において、垂直分布の幅に大きな相違が認められ、水平分布の様態とともに特筆される（文献記録を除く。文中は学名省略）。

4. まとめ

北東北産セリ目植物について、72 種類（自生植物 66 種類、帰化植物・植栽植物 6 種類、ただし変種以上）の分布図を作成した。

また、個別の植物について、生活型、生育地、北東北における分布の様態、国内および国外の分布、その他について記述した。

分布の型はきわめて多様である。分布図に示された分布の疎密の度合い及び偏りから、広汎型、偏在型に区分を試みた。また、これらの型はそれぞれさらに細分される可能性を示した。

植物の分布は、水平分布、垂直分布ともに広範な面積を対象とした全域的で詳細な調査によって初めて把握される知見が多い。

現在、下北半島の現地調査が不十分であり、この地域はデータ不足による分布空白域が存在する。より充実した植物分布図作成のためには、未調査地域を中心に更なるデータの集積が不可欠である。

5. 謝辞

現地調査の協力とデータ提供等の援助をいただいた、秋田県在住の越前谷康氏と松田義徳氏、また、現地調査の協力と分布の図式化を担当していただいた宮城県在住の杉山廣雄氏に心からお礼申し上げます。

6. 文献

秋田営林局. 1934. 管内国有林植物目録.
青森県. 2006. 青森県の希少な野生生物－青森県レッドリスト改訂増補版－.
青森県. 2006. 青森県外来種対策学術調査報告書－青森県外来種リスト－.
青森県. 1978. 特定植物群落調査報告書. 第 2 回自然環境保全基礎調査.
中国科学院中国植物志編輯委員会. 1992. 中国植物志. 第五十五卷. 第三分冊. 科学出版社.
Czerepanov S.K. 1995. Vascular Plants of Russia and Adjacent States (The Former USSR). Cambridge University Press.
藤原陸夫. 1997. 秋田県植物分布図. 秋田県.
藤原陸夫. 2000. 秋田県植物分布図. 第 2 版. 秋

田県環境と文化のむら協会.
藤原陸夫・阿部裕紀子. 2010. 北東北チェックリスト第 2 版. 秋田植生研究会.
藤原陸夫・松田義徳・阿部裕紀子. 2005. 秋田県植物目録第 11 版. 秋田植生研究会.
花巻市教育研究所理科資料班. 1983. 花巻の植物 1. 花巻市教育研究所.
畠山益穂. 1988. 鷹巣地方植物誌. 畠山洋子（個人出版）.
畠山茂雄. 1973. 岩手県閉伊川流域の植物. 「岩手県閉伊川流域の植物」刊行会.
細井幸兵衛. 1994. 青森県野生植物目録. みどり造園有限会社植生調査部.
細井幸兵衛. 2005 - 2009. 青森県植物図. <http://thinkaomori.cool.ne.jp/iwabuti/zufu/index.html>.
Hultén E. 1968. Flora of Alaska and Neighboring Territories. Stanford University Press.
岩手県. 1978. 特定植物群落調査報告書. 第 2 回自然環境保全基礎調査.
岩手県. 2001. 岩手県の希少な野生生物－いわてレッドデータブック－.
岩手県西根町. 1993. 特別天然記念物焼走り溶岩流学術調査報告書.
岩手植物の会（編）. 1970. 岩手県植物誌. 岩手県植物の会.
岩手植物の会（編）. 1971. 三陸町植物調査報告書. 岩手植物の会.
Iwatsuki K., Boufford D.E. and Ohba H. (eds.). 2001. Flora of Japan II b. Kodansha.
Iwatsuki K., Boufford D.E. and Ohba H. (eds.). 1999. Flora of Japan II c. Kodansha.
加藤ゆき恵・高橋英樹. 2009. 秋山茂雄「極東亜産スゲ属植物」図版標本目録. 北海道大学総合博物館.
勝山輝男. 2005. 日本のスゲ. 文一総合出版.
菊地政雄・小水内長太郎. 1961. 陸中早池峯連峯の植物. 上西科学教育研究会.
北村四郎・村田源. 1961. 原色日本植物図鑑草本編 [II] 離弁花類. 保育社.
小水内長太郎（編）. 1977. 東和町植物誌. 東和町教育委員会.
小水内正明・中村致孝・竹原明秀. 2006. 宮古市

- 十二神山周辺の植物相－北上山地中・北部に残存する中間温帯性自然林の分布と特性．北上山地森林生態系研究グループ．
- 近田文弘・梅田市美．2002．植生と植物相に基づく能代市風の松原海岸林の環境保全．自然環境科学研 vol.14．
- 桑山邦亨・望月陸夫．1964．秋田県太平山の植物．秋田高校生物部同窓会．
- 松岡洋一．1990．自鏡山の植物．一関市教育研究所．
- 宮城県．1978．特定植物群落調査報告書．第2回自然環境保全基礎調査．
- 宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団．2010．伊豆沼・内沼産植物リスト 伊豆沼・内沼研究報告4号．
- 宮城植物の会・宮城県植物誌編集委員会（編）．2001．宮城県植物目録2000．宮城植物の会・宮城県植物誌編集委員会．
- 宮脇昭（編）．1987．日本植生誌（東北）．至文堂．
- 宮脇昭・藤原一絵・望月陸夫．1977．姥屋敷の植生．横浜植生学会．
- 宮脇昭・奥田重俊・藤原陸夫．1994．改訂新版日本植生便覧．至文堂．
- 宮脇昭・奥田重俊・大野啓一・鈴木伸一．1986．下北半島および亀田半島南部の植生．電源開発株式会社．
- Mizushima M. & Mori O. 1958. A Check - list of Vascular Plants of Shimokita Peninsula, Aomori Prefecture. 資源科学研究所彙報. 第48号.
- 望月陸夫．1966．秋田県男鹿半島の植物．北陸の植物の会．
- 望月陸夫．1969．秋田県大湯村の植物．（個人出版，謄写刷）．
- 望月陸夫．1969．秋田県田代岳の植物．（個人出版，謄写刷）．
- Mt.Hakkoda Botanical Laboratory. 1986. A List of Vascular Plants of Hakkoda Mountains. Tohoku University.
- 村松七郎．1932．秋田県植物誌．秋田県師範学校郷土室．
- 西郡教育研究会理科部植物調査班（編）．1979．車力村屏風山植物誌．車力村・車力村教育委員会．
- 西磐井科学教育研究会．1992．真湯の植物．一関市教育研究所．
- 西津軽の植物編集委員会（編）．1982．西津軽の植物．西津軽郡教職員組合．
- 大場秀章．2009．植物分類表．アボック社．
- 奥田重俊・藤原一絵・宮脇昭．1970．津軽半島・岩木山・十二湖の植生．日本自然保護協会調査報告第37号．
- 新庄市教育委員会（編）．1974．神室山の植生．
- 菅原亀悦（編）．1990．栗木ヶ原湿原学術調査報告書．岩手県．
- 鈴木實．1988．一関地方のシダ植物．一関市教育研究所．
- 竹原明秀．2006．大森の大谷地の植生と植物相；遠野市文化財調査報告書第1集．遠野市教育委員会．
- 山形県．1978．特定植物群落調査報告書．第2回自然環境保全基礎調査．
- 山崎敬．1986．日本におけるエゾノヨロイグサの変異．植物研究雑誌．第61巻．第8号．238-245．
- 米倉浩司・梶田忠（2003 - ）「BG Plants 和名－学名インデックス」（YList），http://bean.bio.chiba-u.jp/bgplants/ylist_main.html（2012年1月12日）．
- 米倉浩司・邑田仁（監）．2009．高等植物分類表．北隆館．
- 結城嘉美．1992．新版山形県の植物誌．新版山形県の植物誌編纂委員会．
- 〔定期刊行物（誌名のみ，一部重複）〕
- 秋田自然史研究．青森県立郷土館調査研究年報．
- フロラ山形．岩手県立博物館収蔵資料目録．
- 岩手植物の会会報．北上市立博物館研究報告．国立科学博物館研究報告．水草研究会誌．陸前高田市立博物館紀要および収蔵目録．生態環境研究．
- 莎草研究．植物分類研究．植物研究雑誌．
- 植物地理分類研究（北陸の植物）．東北植物研究．
- 山形県立博物館収蔵目録．

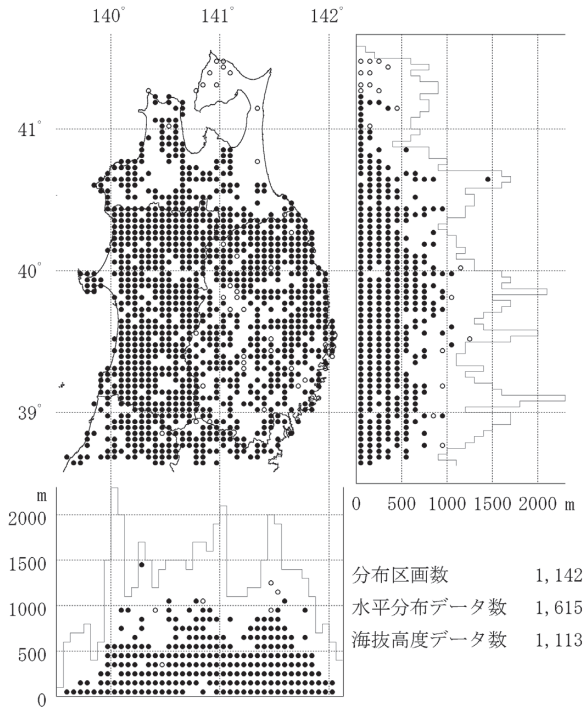


図3. *Aralia cordata*

ウド

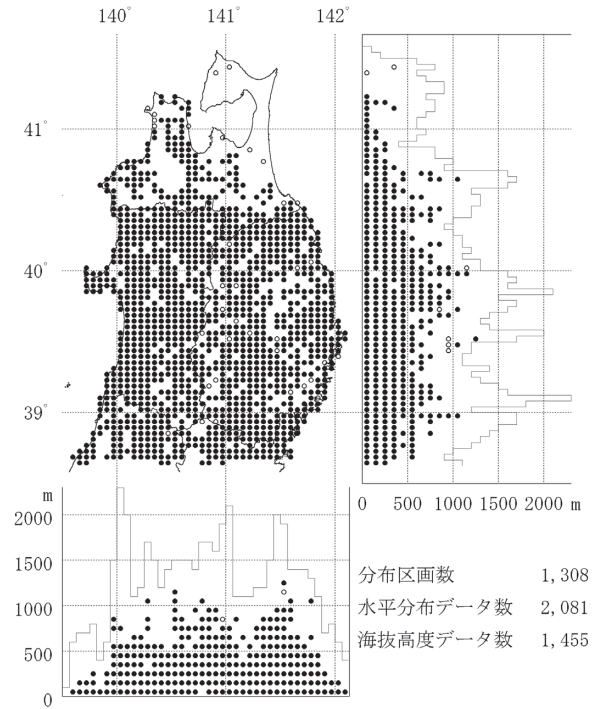


図4. *Aralia elata*

タラノキ

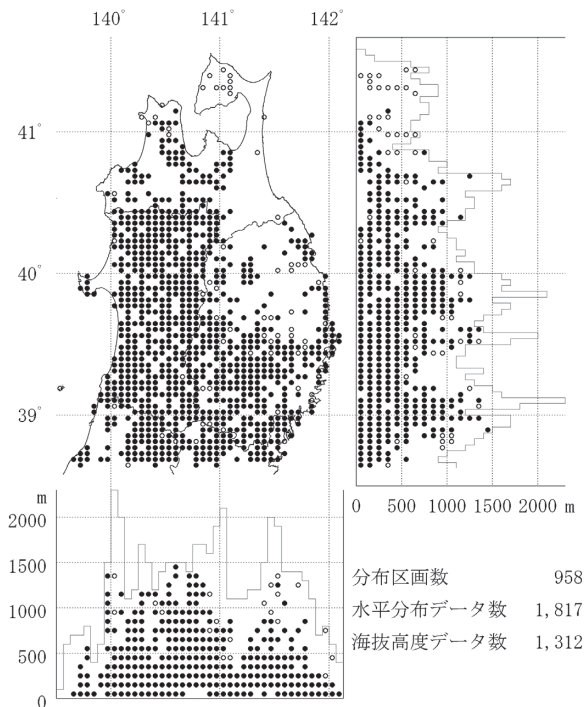


図5. *Chengiopanax sciadophylloides*

コシアブラ

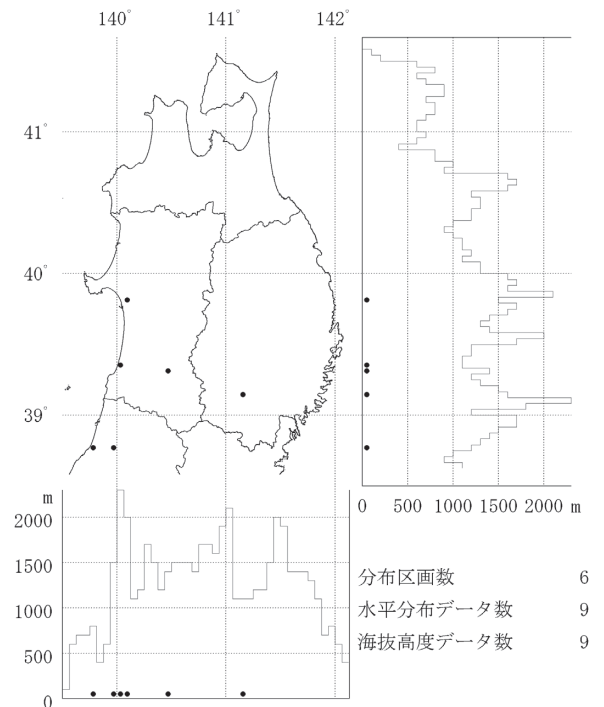


図6. *Dendropanax trifidus*

カクレミノ

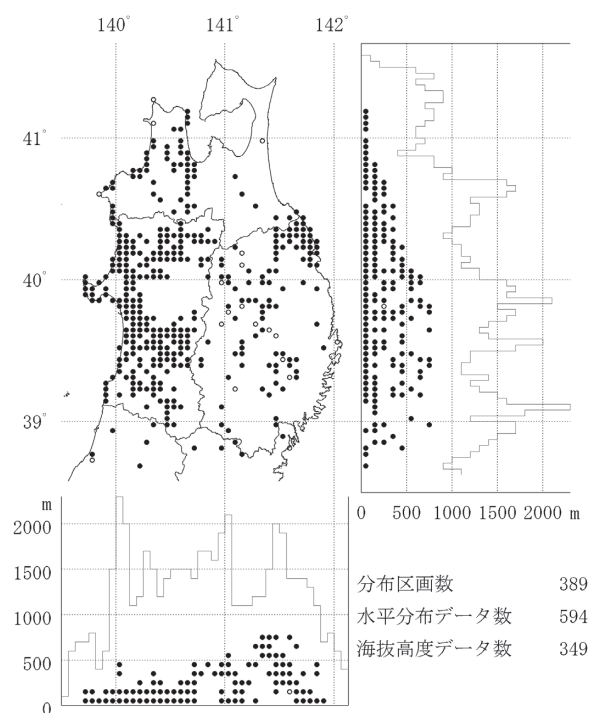


図7. *Eleutherococcus divaricatus* ケヤマウコギ

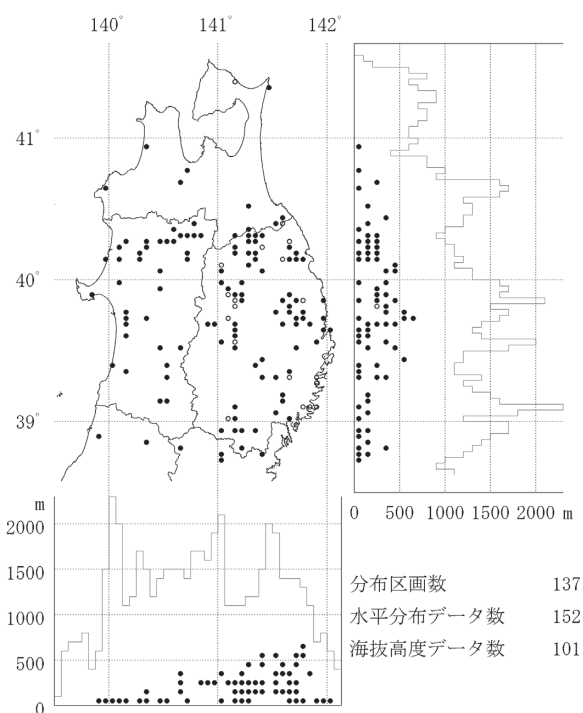


図8. *Eleutherococcus sieboldianus* ヒメウコギ

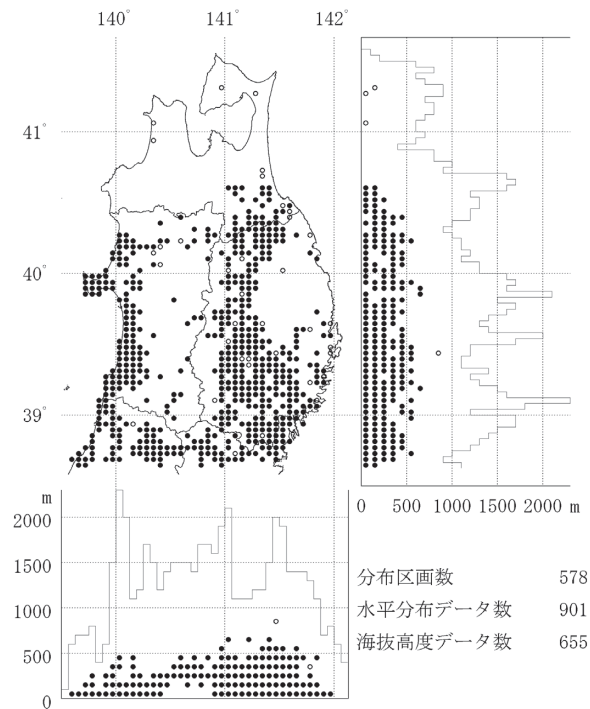


図9. *Eleutherococcus spinosus* ヤマウコギ

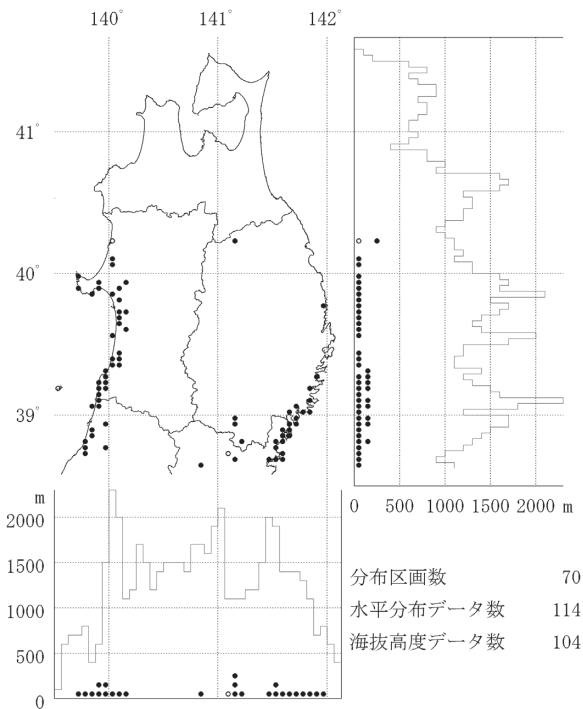


図10. *Fatsia japonica* ヤツデ

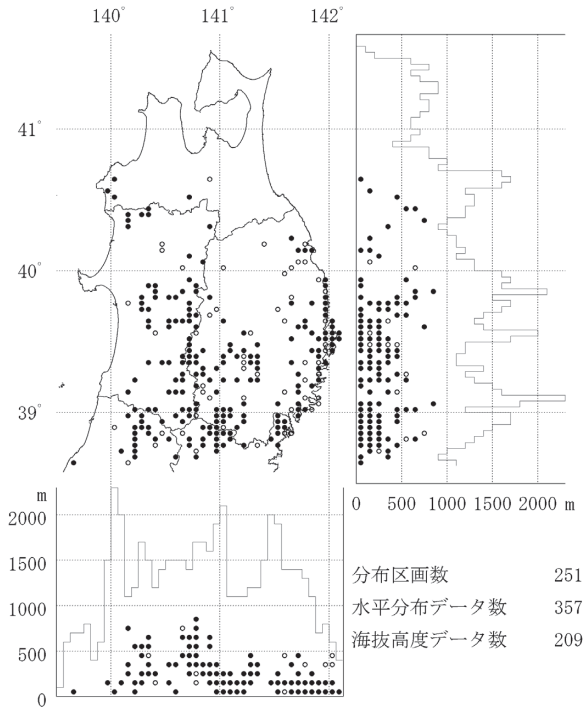


図11. *Gamblea innovans*

タカノツメ

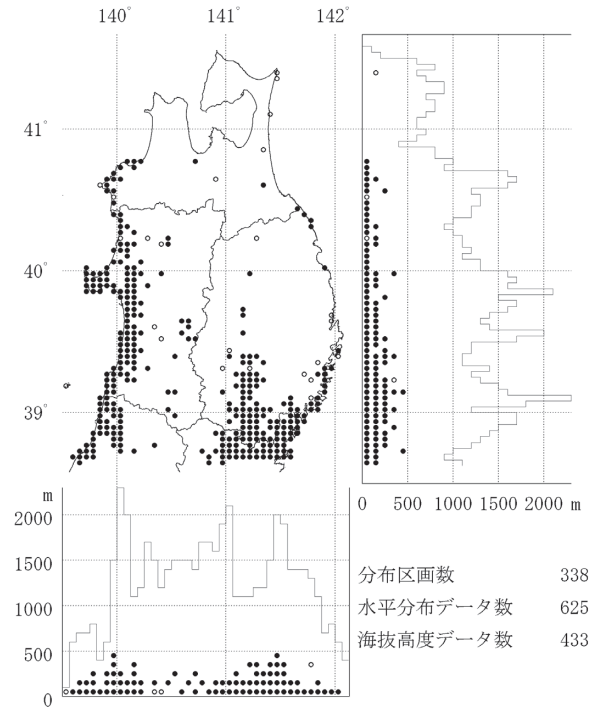


図12. *Hedera rhombea*

キツタ

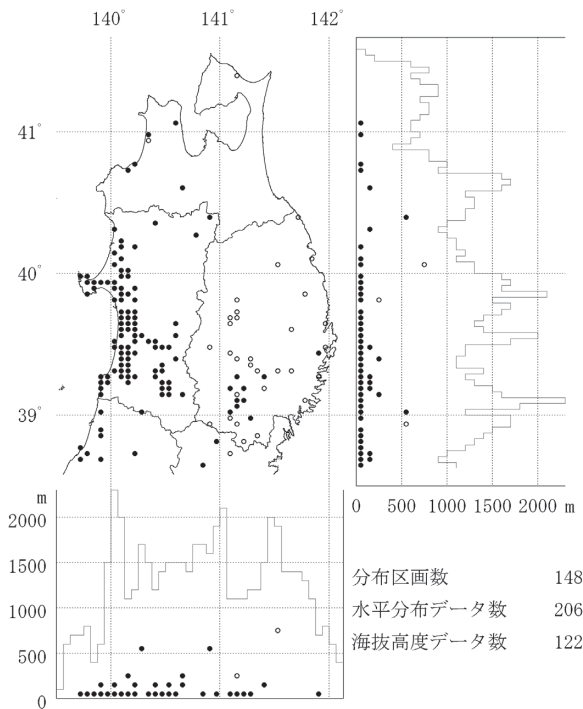


図13. *Hydrocotyle maritima*

ノチドメ

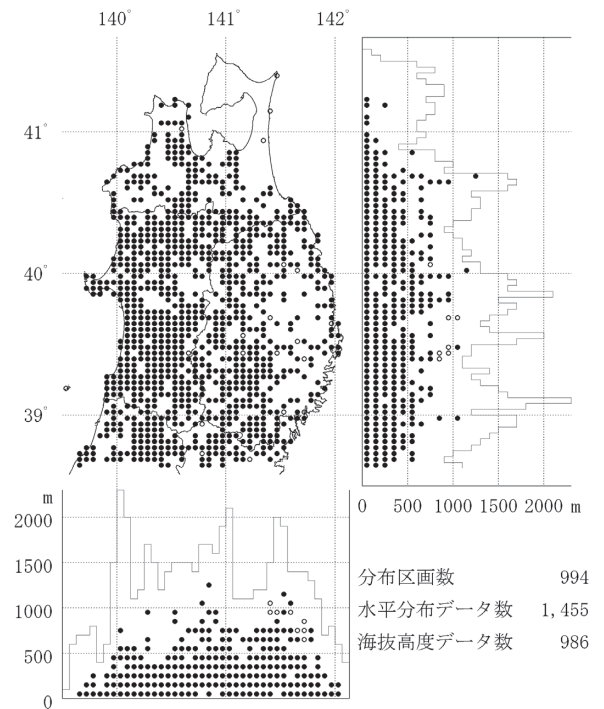


図14. *Hydrocotyle ramiflora*

オオチドメ

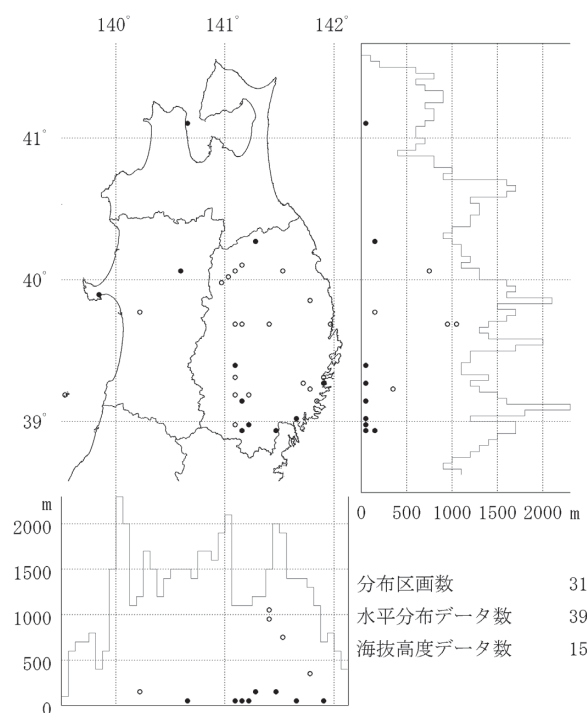


図15. *Hydrocotyle sibthorpioides* チドメグサ

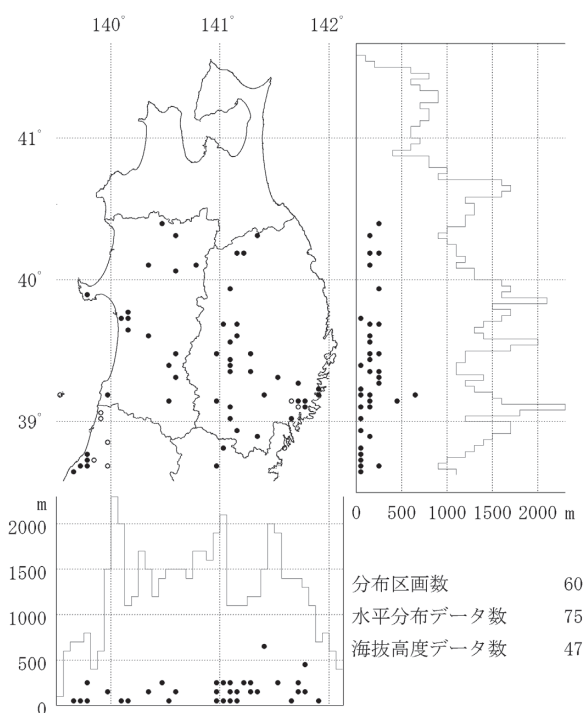


図16. *Hydrocotyle yabei* ヒメチドメ

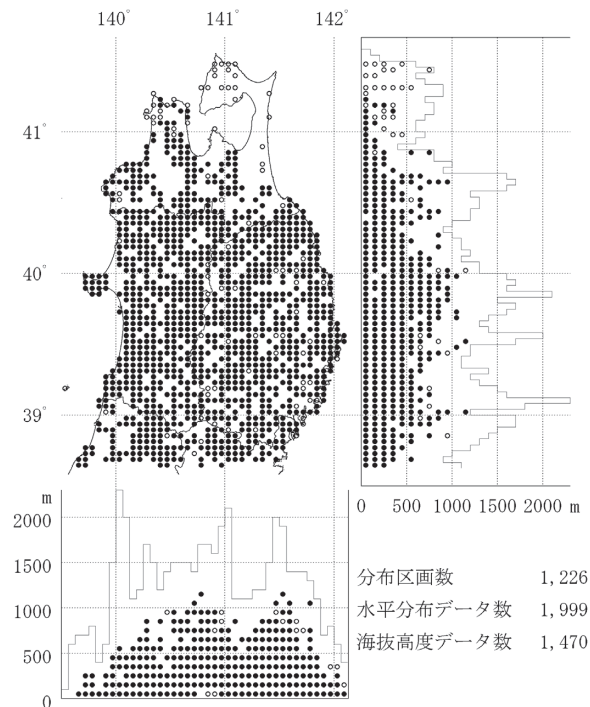


図17. *Kalopanax septemlobus* ハリギリ

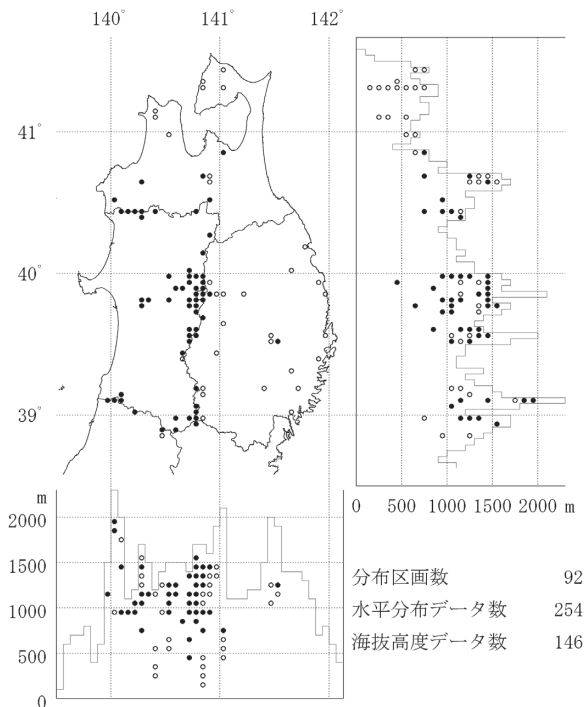


図18. *Oplopanax japonicus* ハリブキ

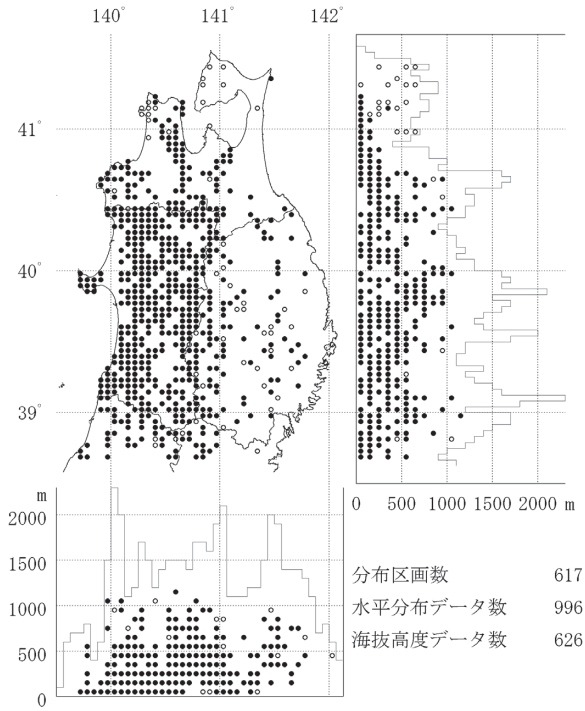


図19. *Panax japonicus*

トチバニンジン

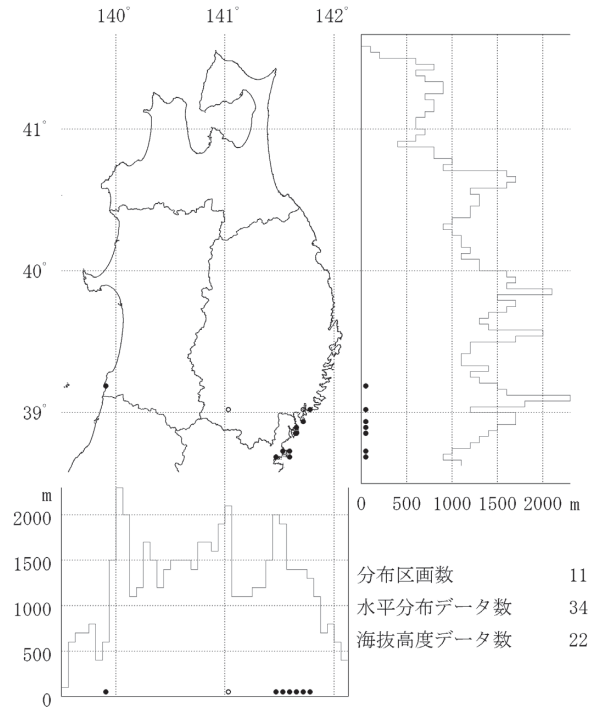


図20. *Pittosporum tobira*

トベラ

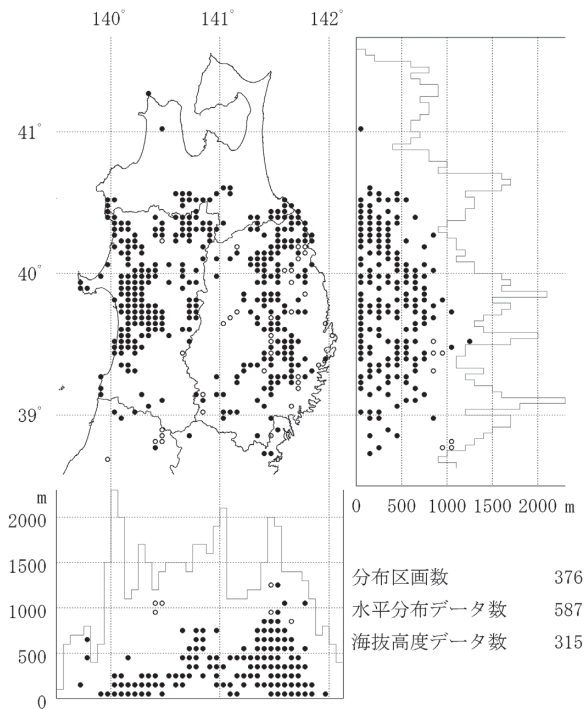


図21. *Aegopodium alpestre*

エゾボウフウ

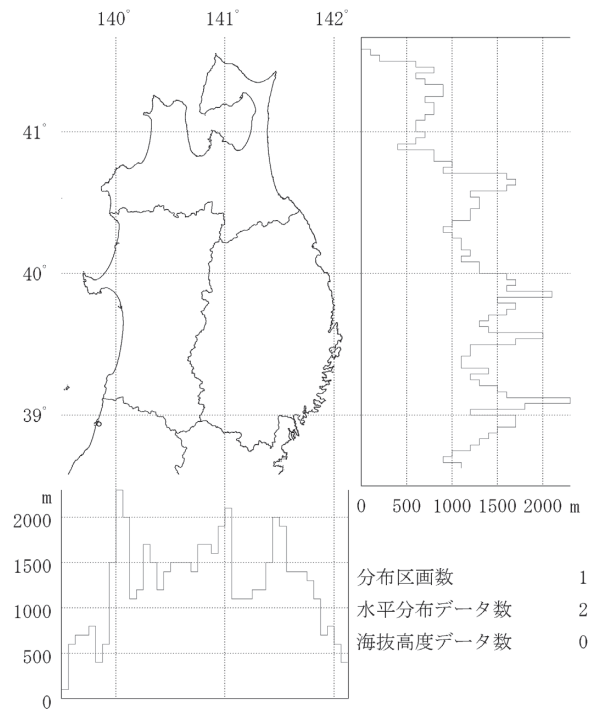


図22. *Ammi majus*

ドクゼリモドキ

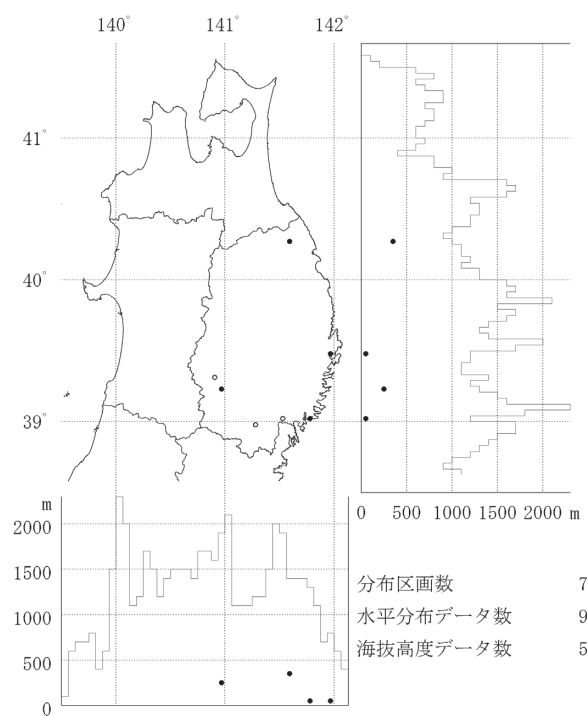


図23. *Angelica acutiloba* subsp. *acutiloba* トウキ

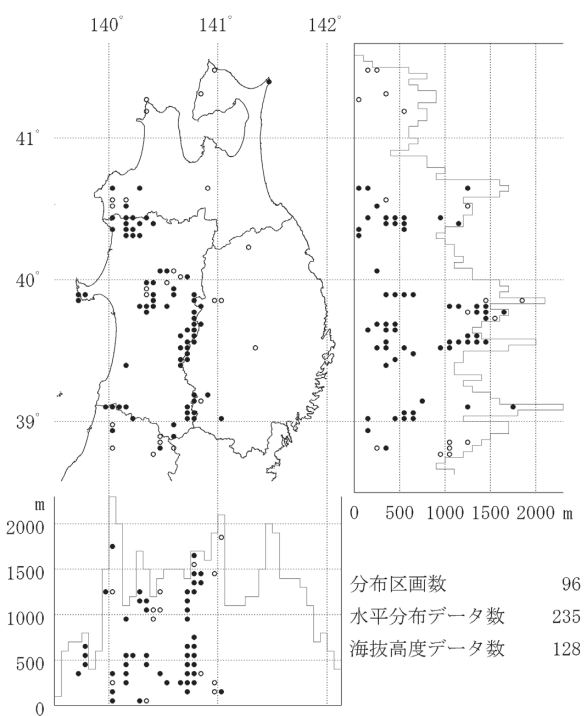


図24. *Angelica acutiloba* subsp. *iwatensis* ミヤマトウキ

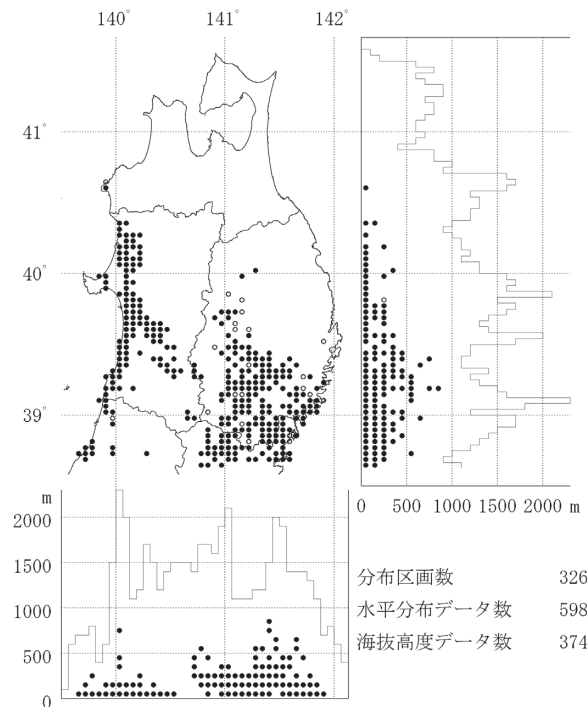


図25. *Angelica decursiva* ノダケ

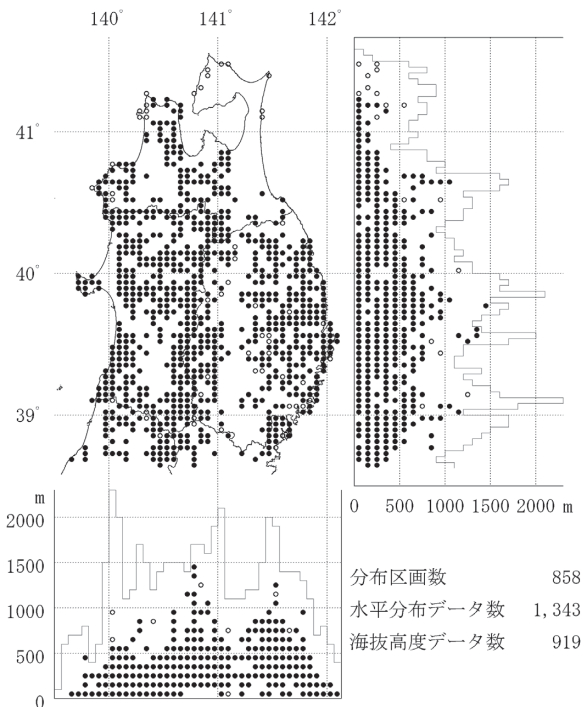


図26. *Angelica edulis* アマニユウ

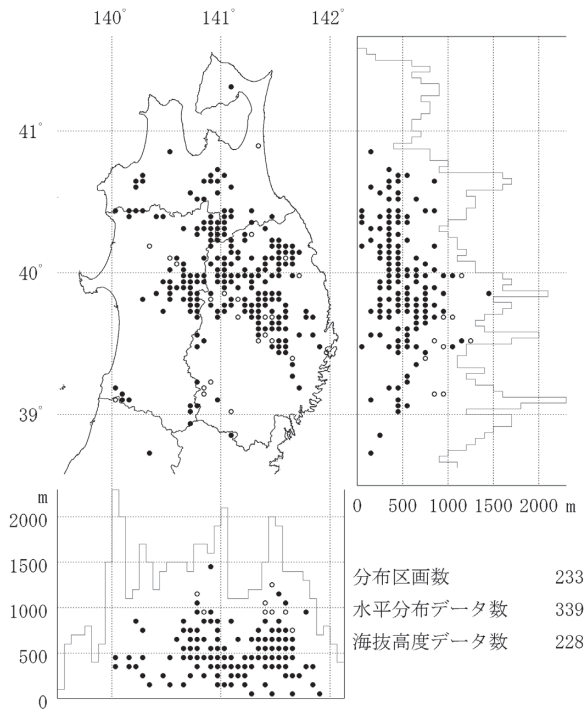


図27. *Angelica genuflexa* オオバセンキュウ

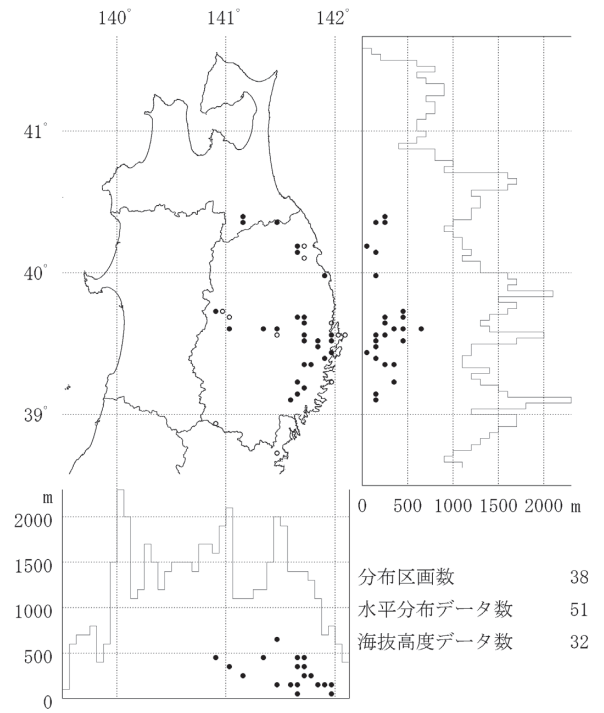


図28. *Angelica inaequalis* ハナビゼリ

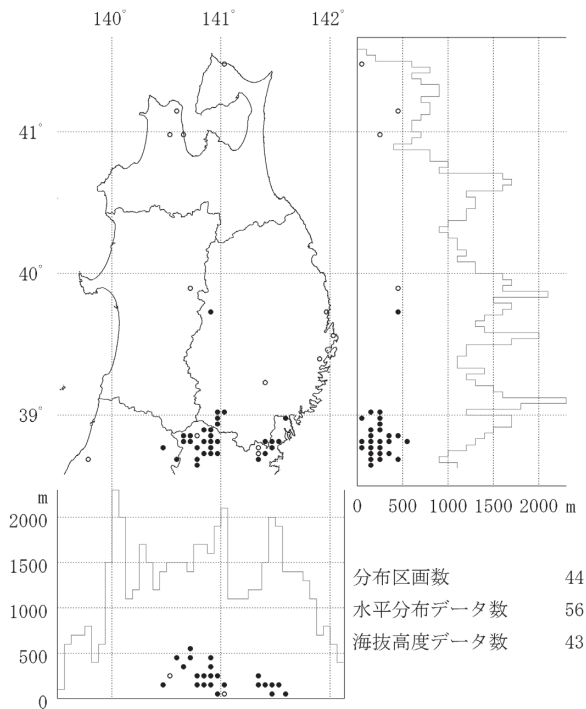


図29. *Angelica polymorpha* シラネセンキュウ

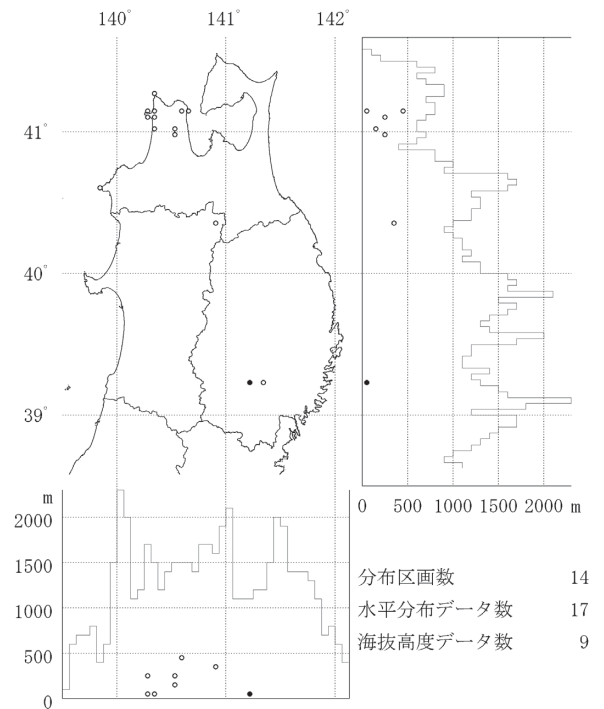


図30. *Angelica pubescens* シシウド

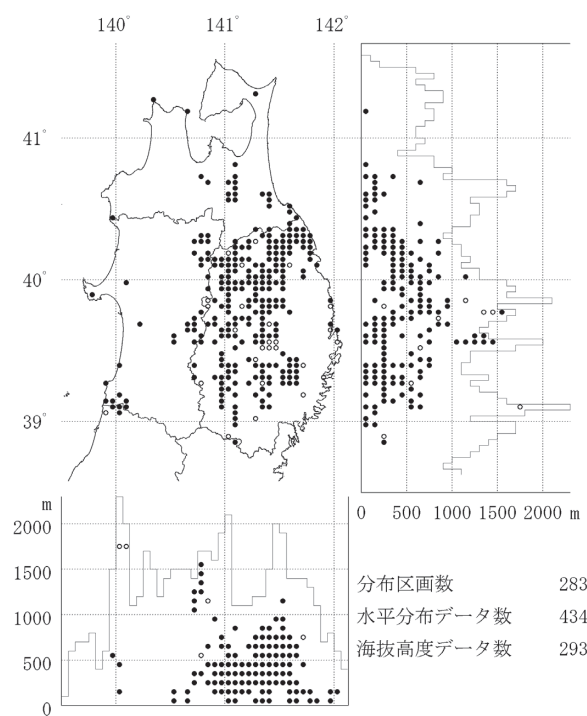


図31. *Angelica sachalinensis* エゾノヨロイグサ

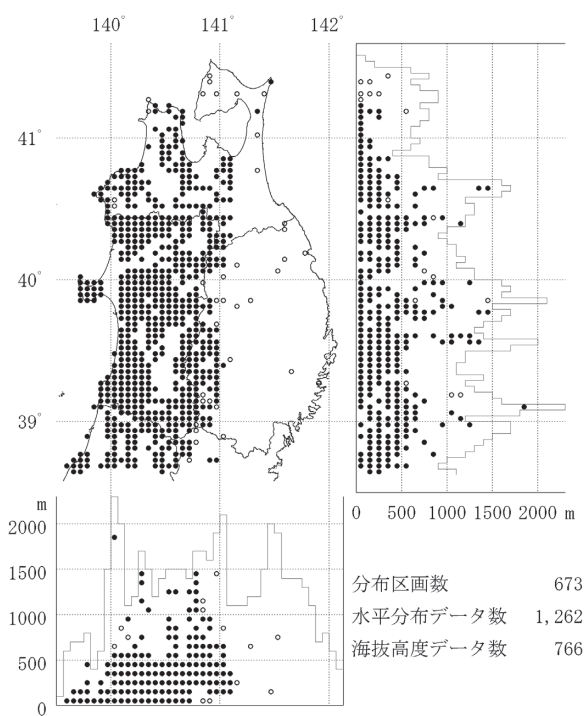


図32. *Angelica ursina* エゾニユウ

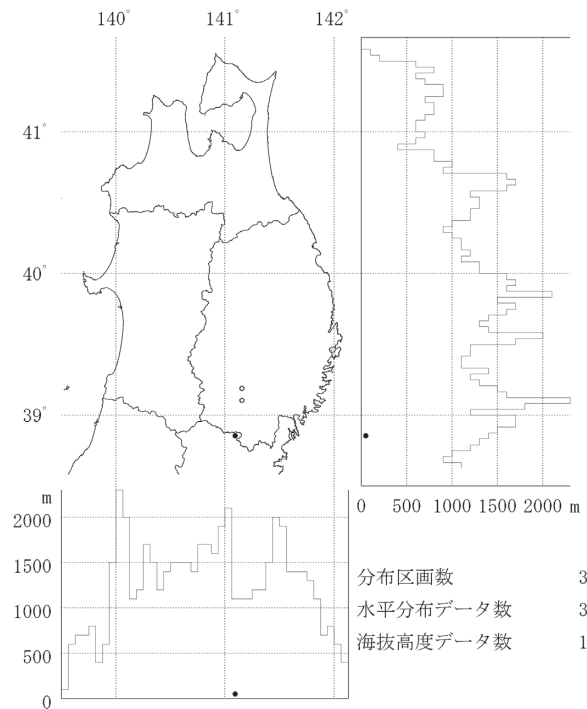


図33. *Anthriscus scandicina* ノハラジャク

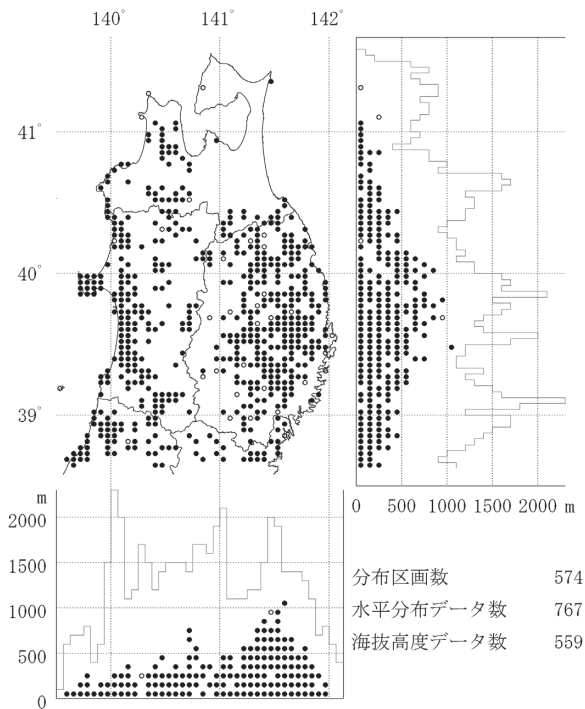


図34. *Anthriscus sylvestris* シヤク

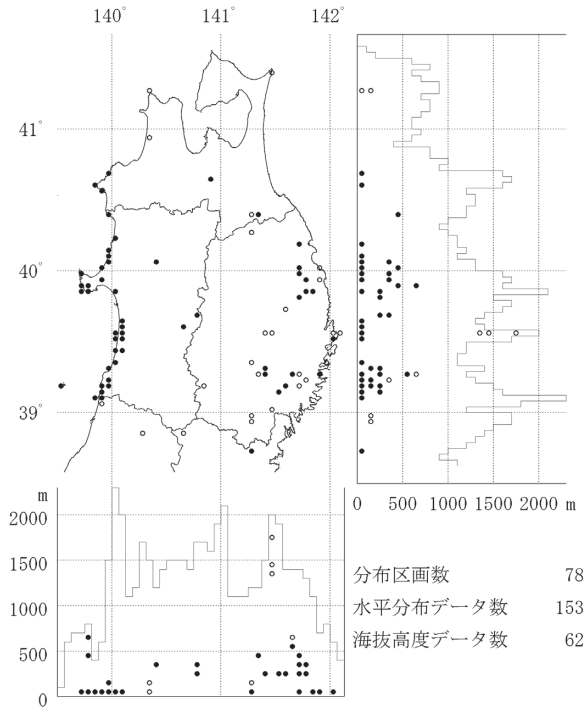


図35. *Bupleurum longiradiatum* var. *elatius*
ホタルサイコ

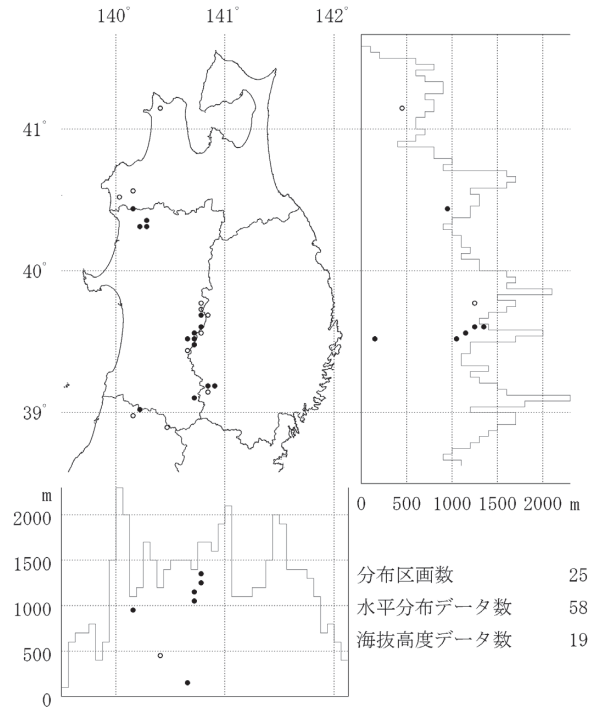


図36. *Bupleurum nipponicum*
ハクサンサイコ

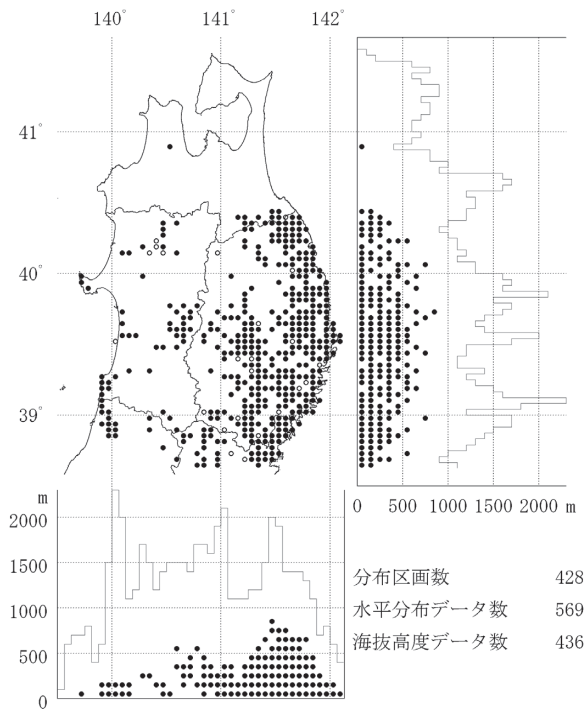


図37. *Chamaele decumbens*
セントウソウ

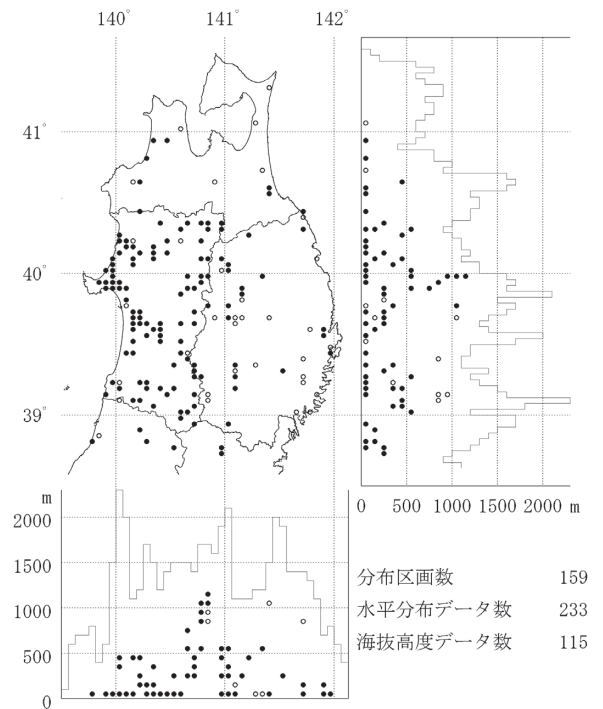


図38. *Cicuta virosa*
ドクゼリ

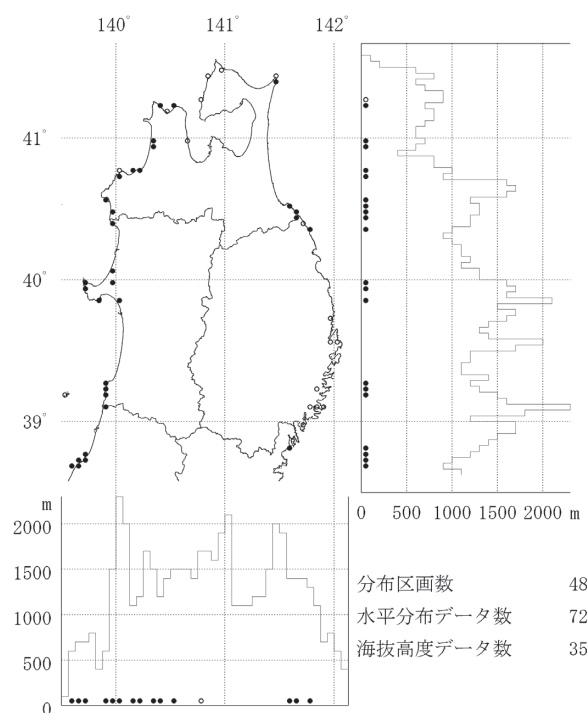


図39. *Chnidium japonicum*

ハマゼリ

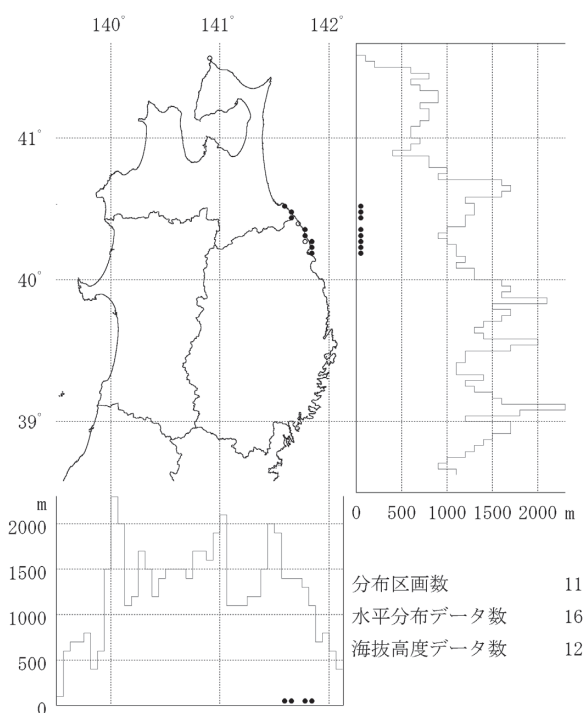


図40. *Coelopleurum gmelinii*

エゾノシシウド

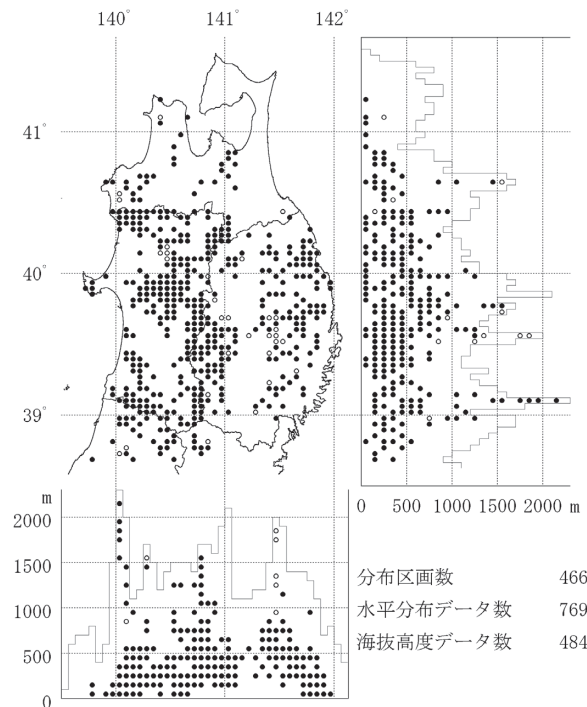


図41. *Conioselinum chinense* var. *chinense*

ミヤマセンキュウ

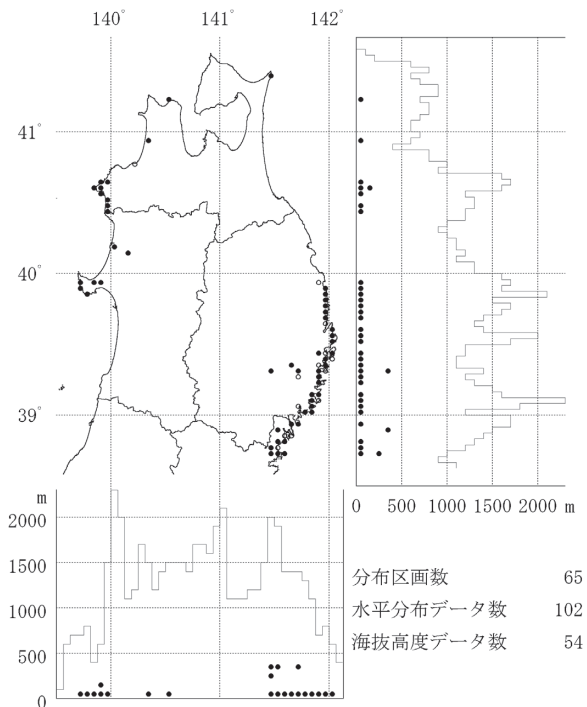


図42. *Conioselinum chinense* var. *gmelinii*

カラフトニンジン

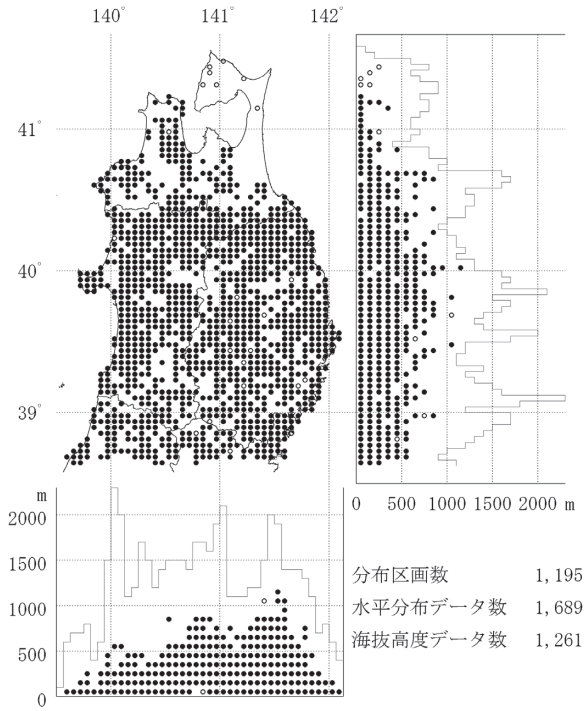


図43. *Cryptotaenia canadensis* subsp. *japonica* ミツバ

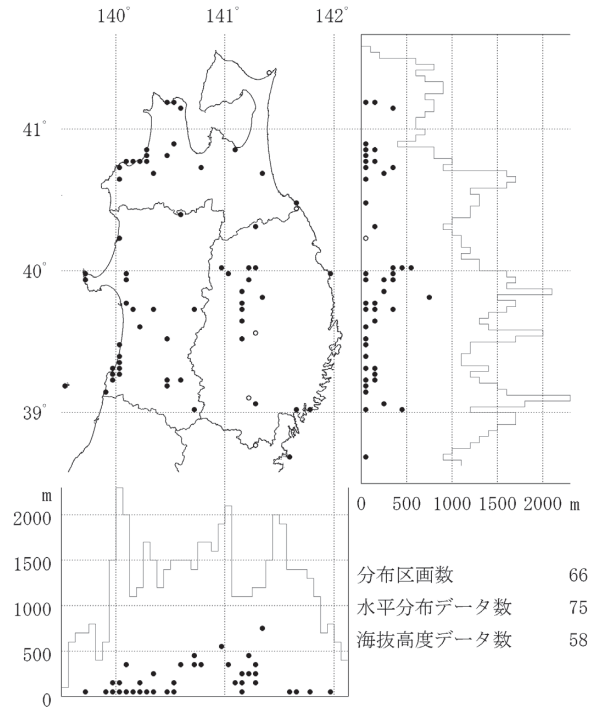


図44. *Daucus carota* ノラニンジン

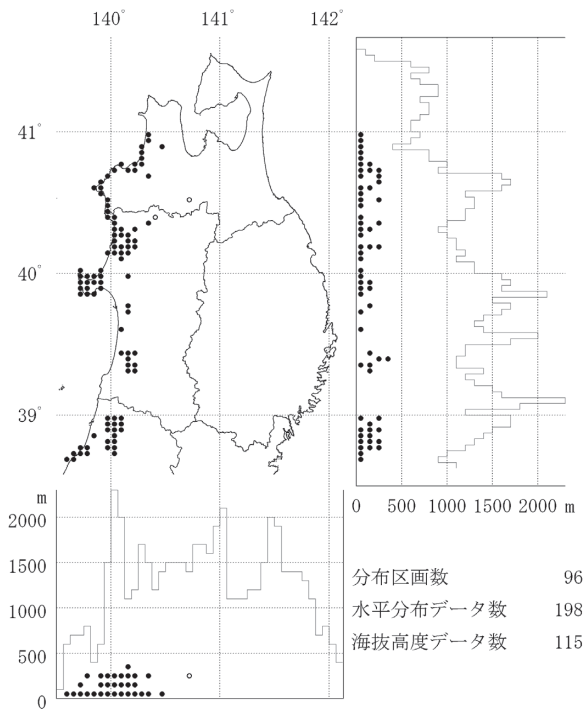


図45. *Dystaenia ibukiensis* セリモドキ

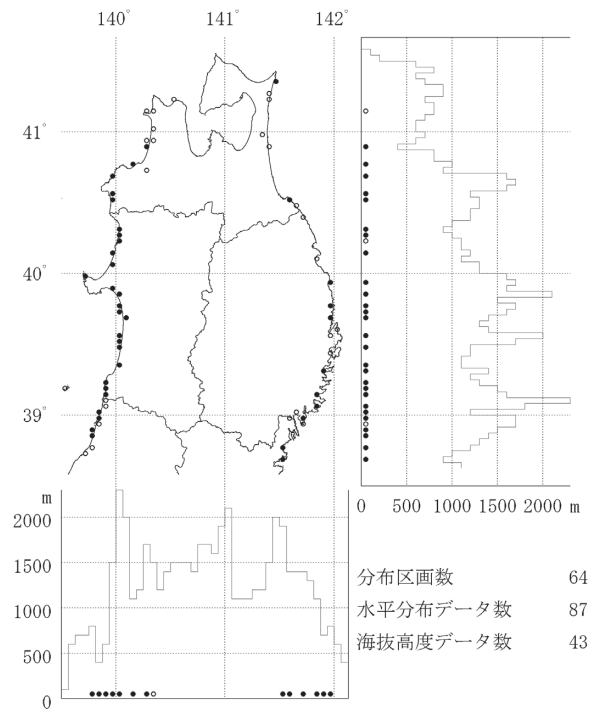


図46. *Glehnia littoralis* ハマボウフウ

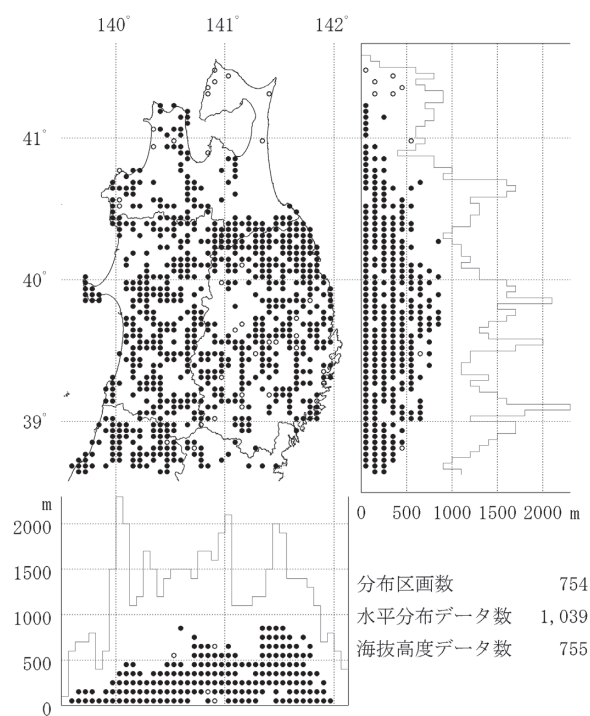


図47. *Heracleum lanatum*

オオハナウド

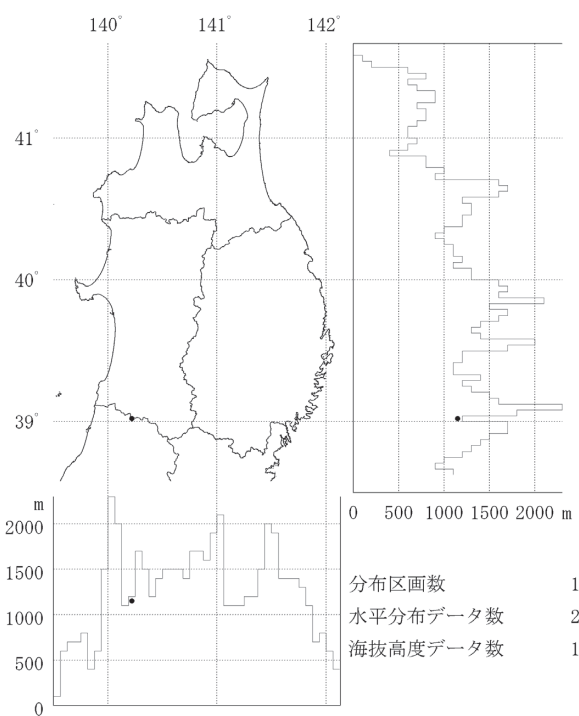


図48. *Libanotis ugoensis* var. *alpicola*

タカネイブキボウフウ

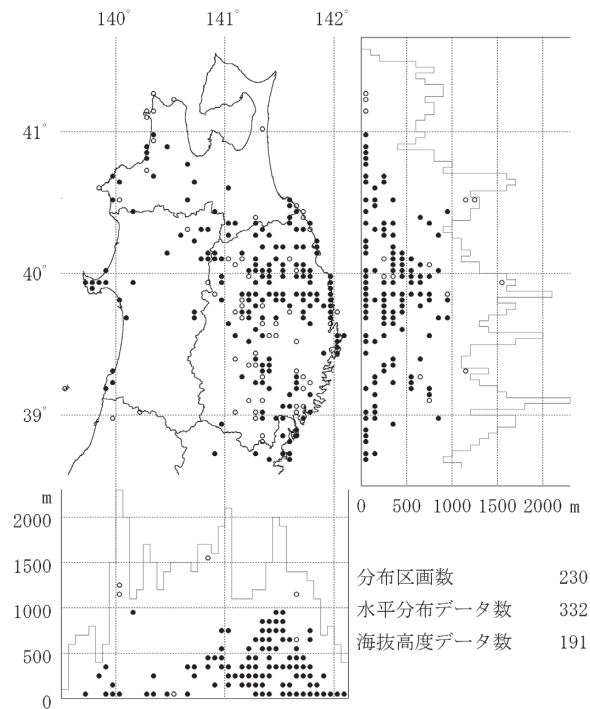


図49. *Libanotis ugoensis* var. *japonica*

イブキボウフウ

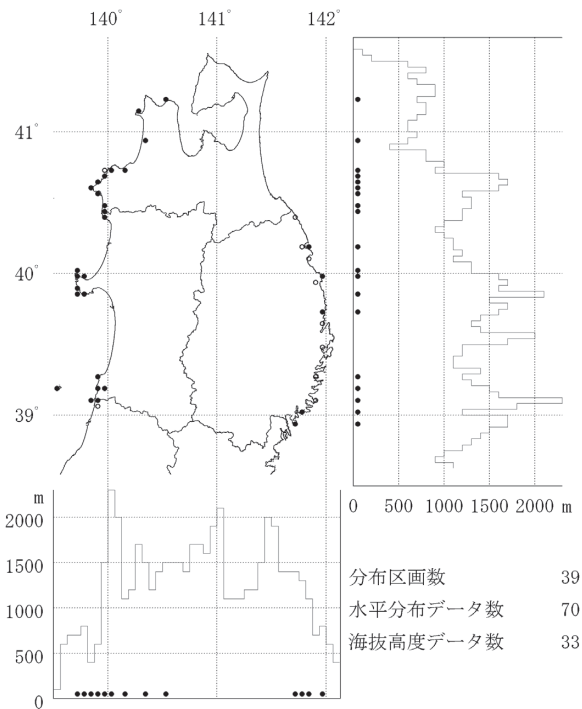


図50. *Libanotis ugoensis* var. *ugoensis*

ハマイブキボウフウ

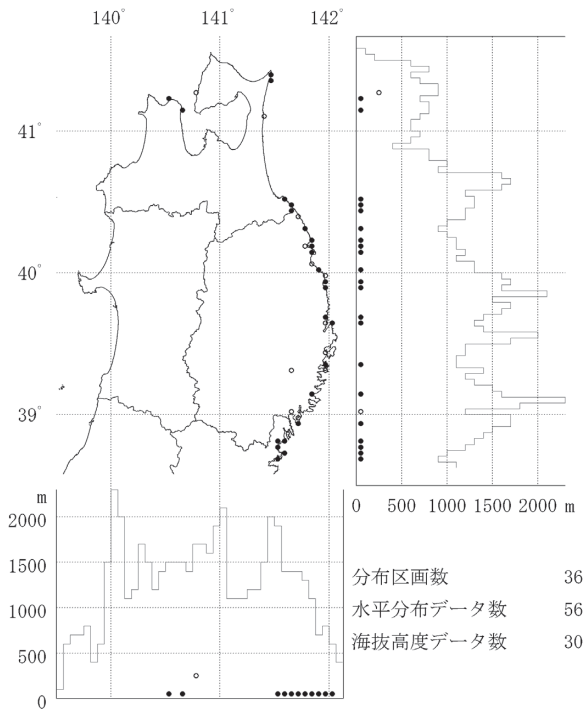


図51. *Ligusticum scoticum* subsp. *hultenii*
マルバトウキ

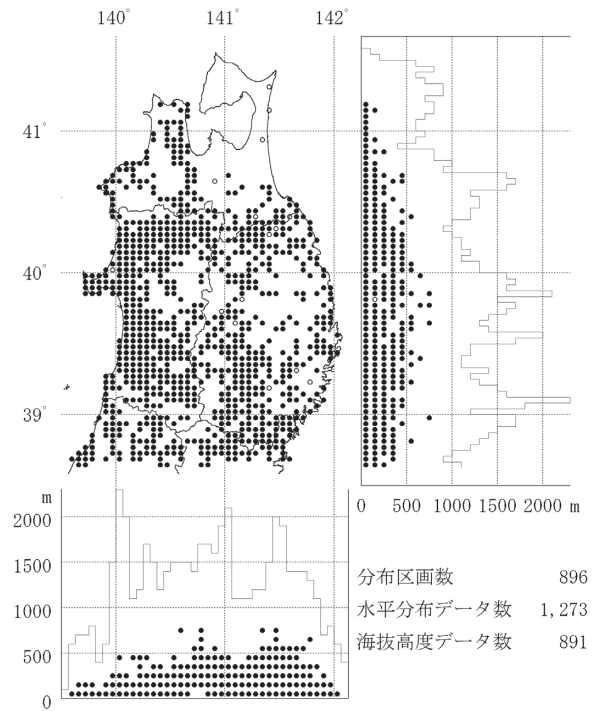


図52. *Oenanthe javanica*
セリ

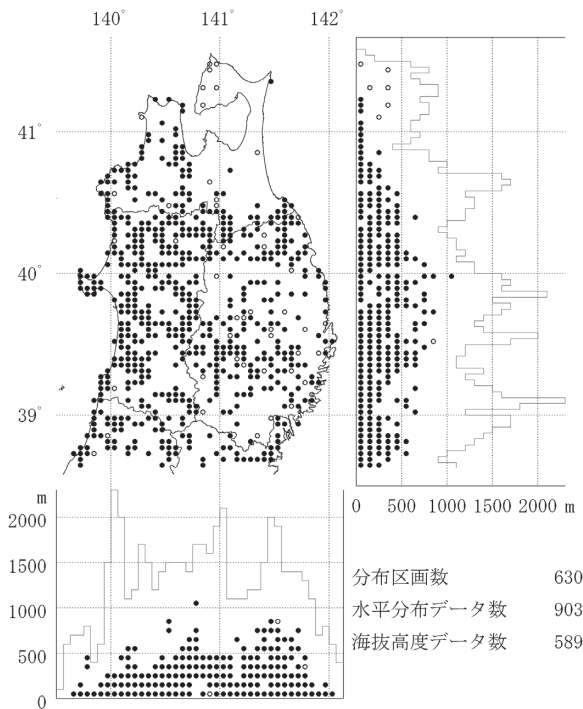


図53. *Osmorhiza aristata* var. *aristata*
ヤブニンジン

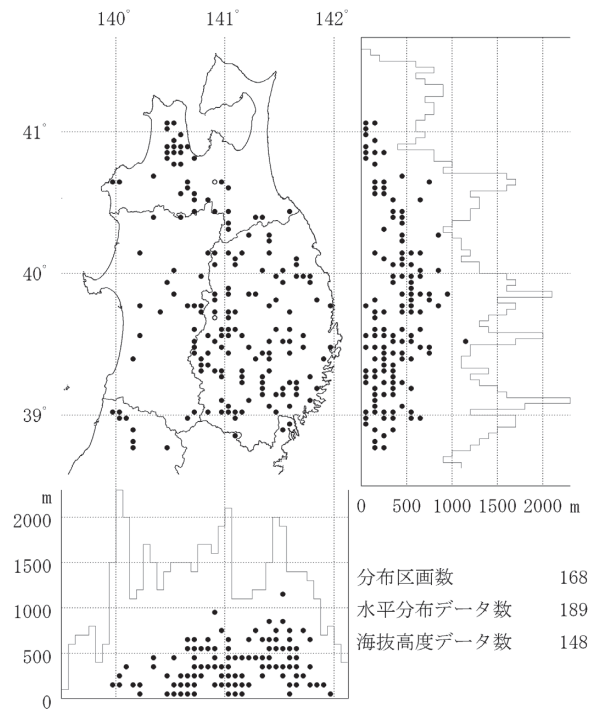


図54. *Osmorhiza aristata* var. *montana*
ミヤマヤブニンジン

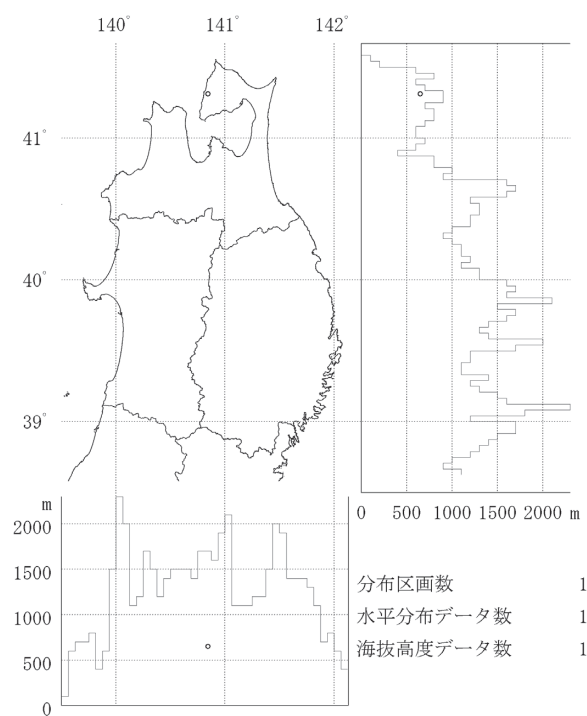


図55. *Ostericum florentii* ミヤマニンジン

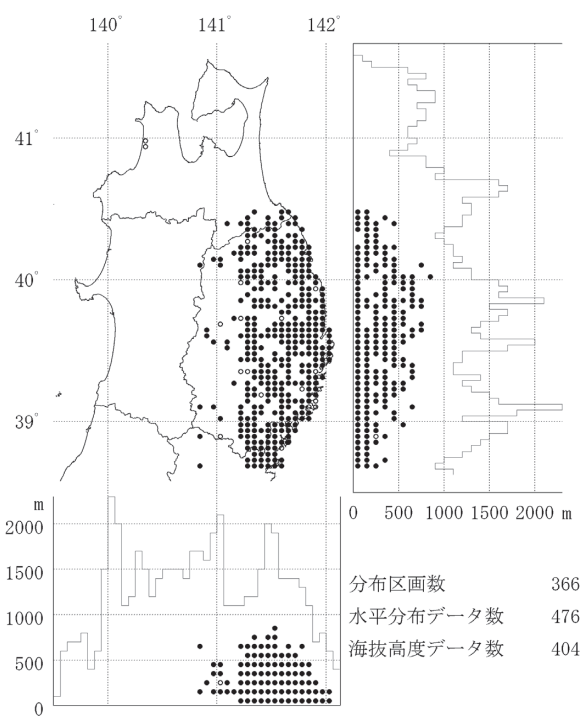


図56. *Ostericum sieboldii* ヤマゼリ

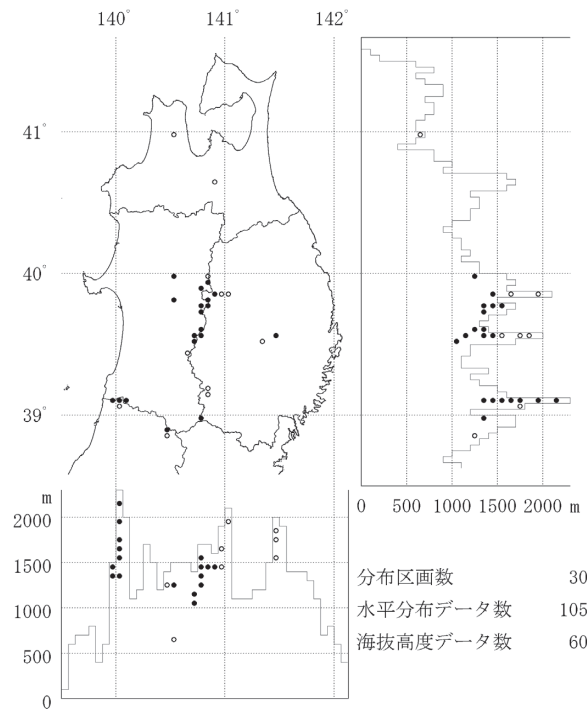


図57. *Peucedanum multivittatum* ハクサンボウフウ

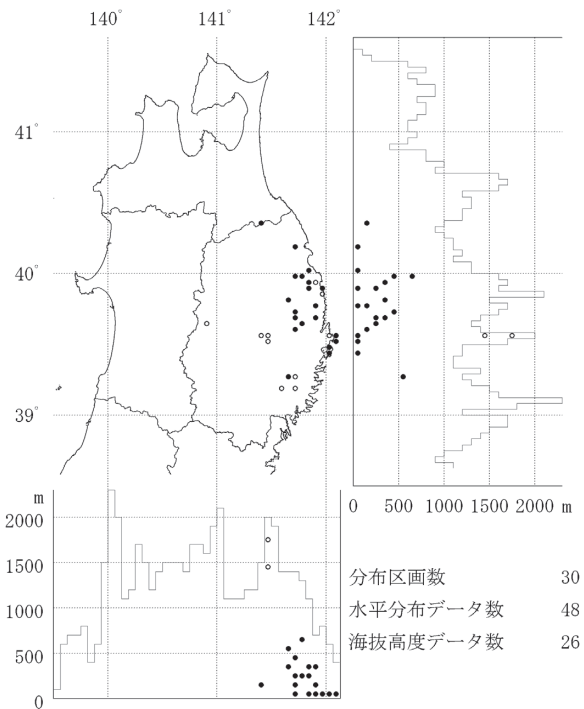


図58. *Peucedanum terebinthaceum* カワラボウフウ

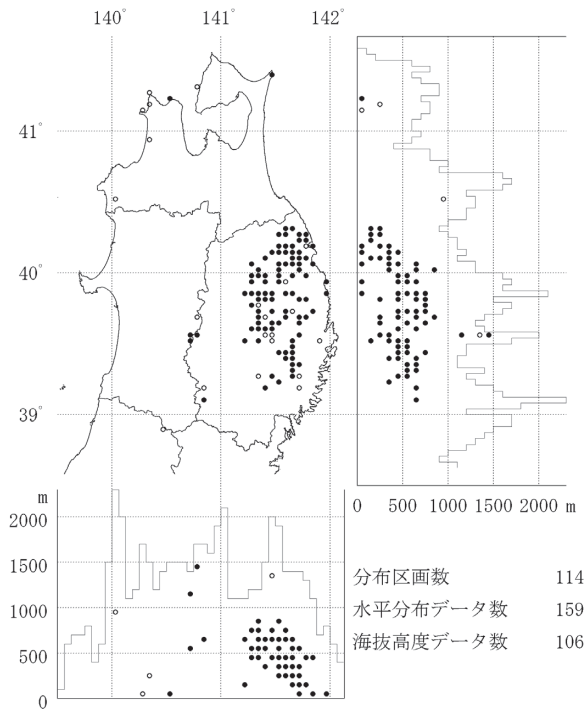


図59. *Pleurospermum uralense* オオカサモチ

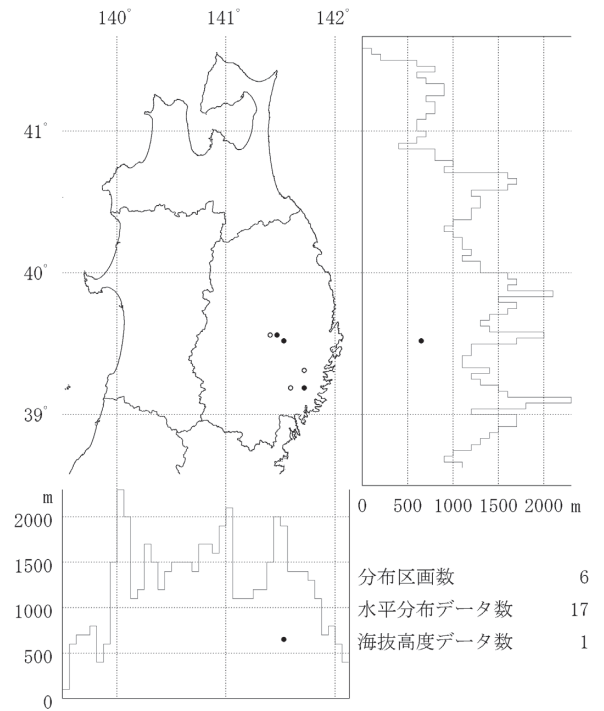


図60. *Pternopetalum tanakae* イワセントウソウ

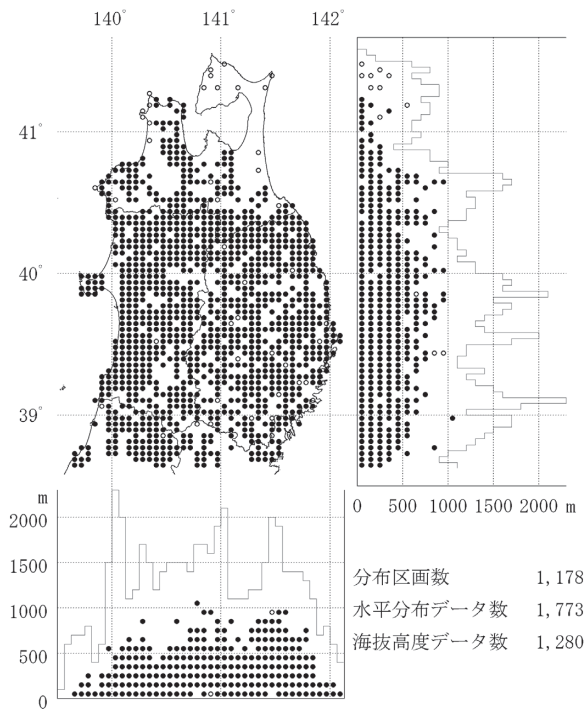


図61. *Sanicula chinensis* ウマノミツバ

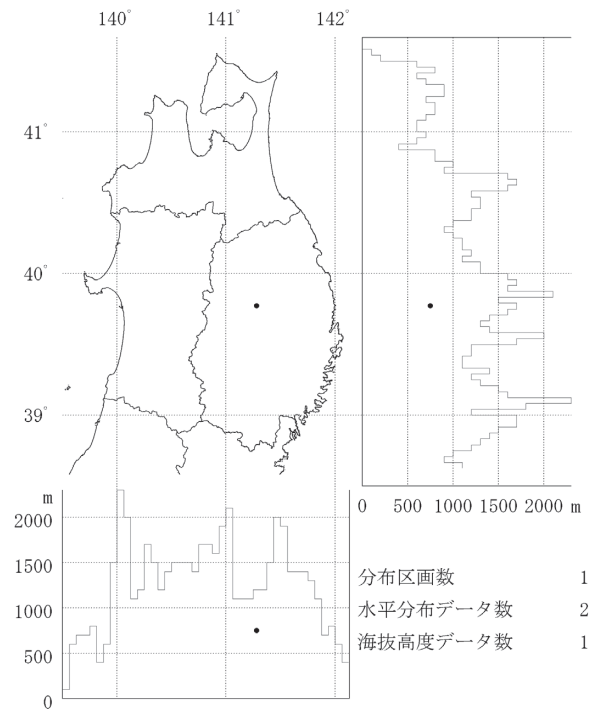


図62. *Sanicula kaiensis* ヤマナシウマノミツバ

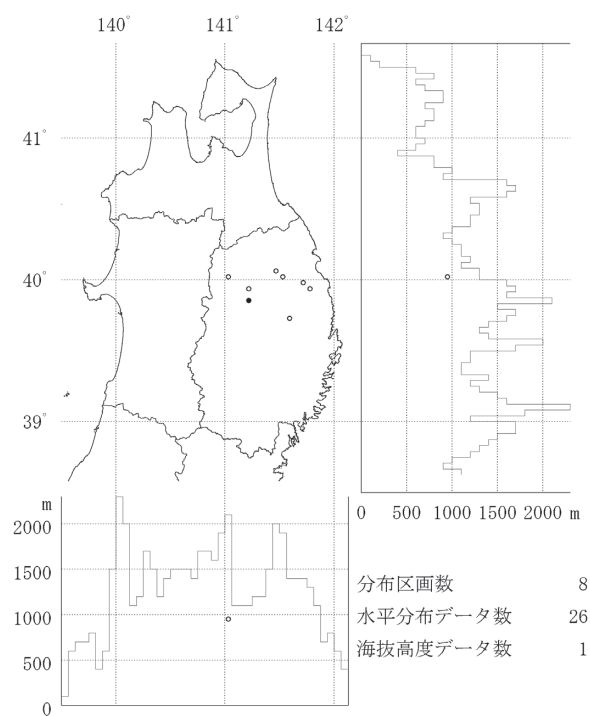


図63. *Sanicula rubriflora* クロバナウマノミツバ

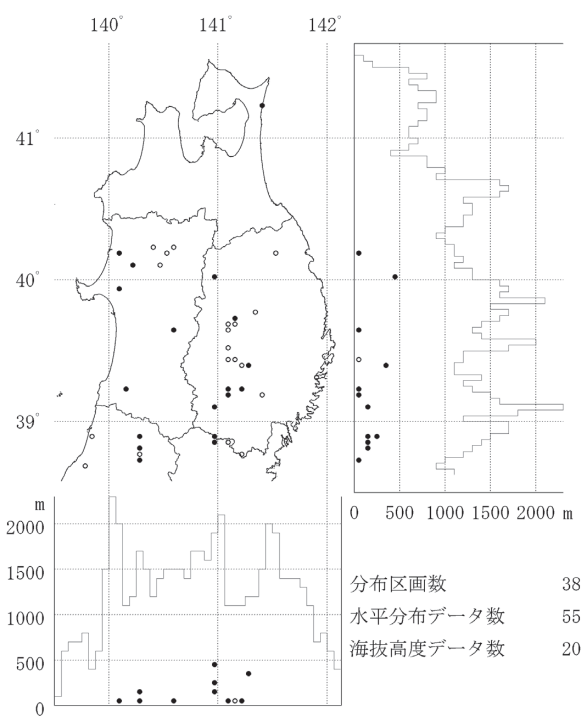


図64. *Sium ninsi* ムカゴニンジン

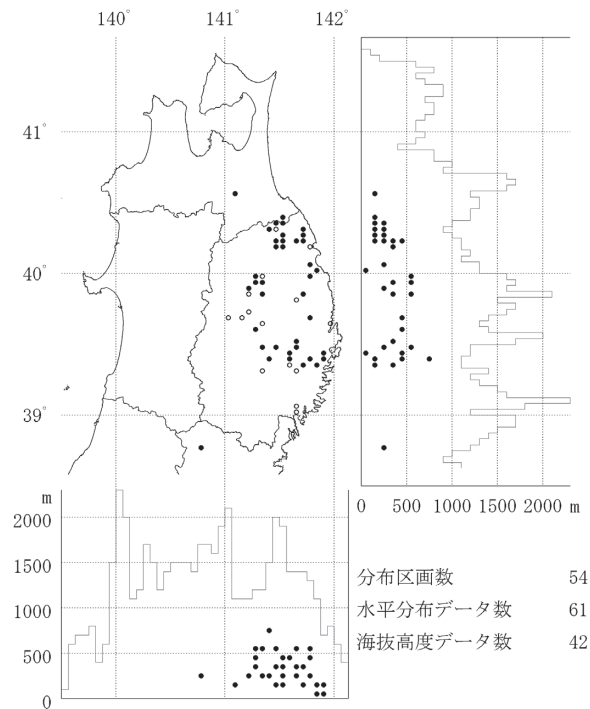


図65. *Sium serra* タニミツバ

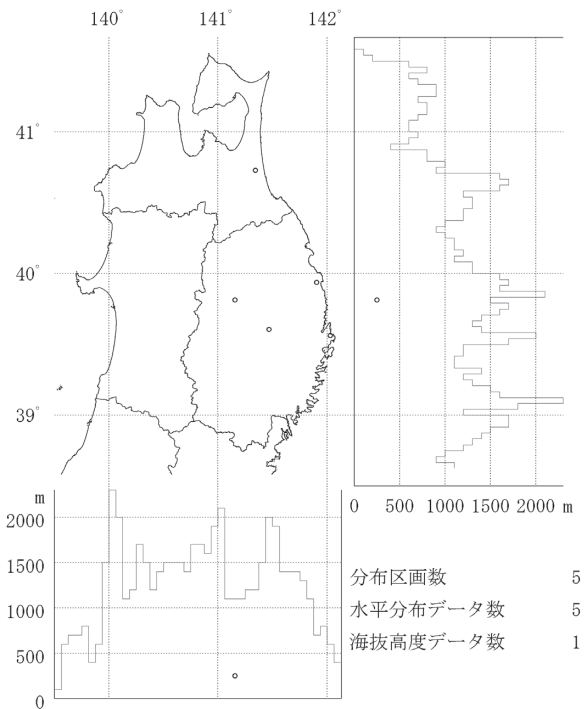


図66. *Sium suave* var. *nipponicum* スマゼリ

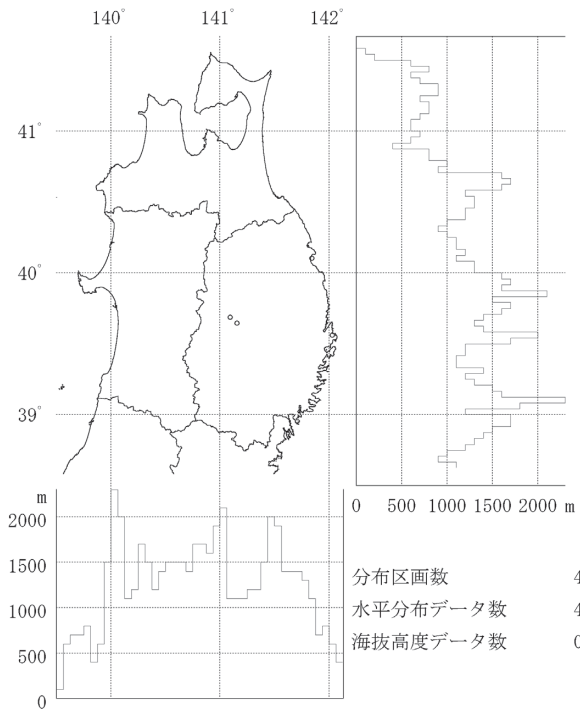


図67. *Sium suave* var. *suave*

トウヌマゼリ

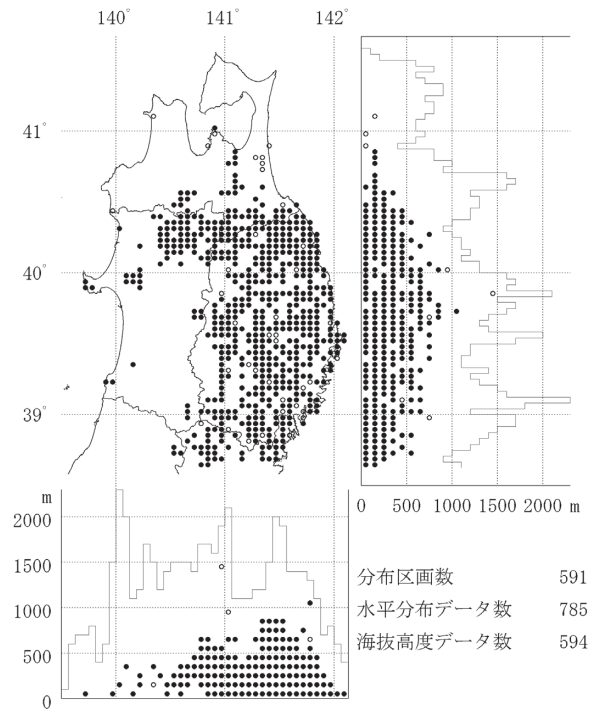


図68. *Spuriopimpinella calycina*

カノツメソウ

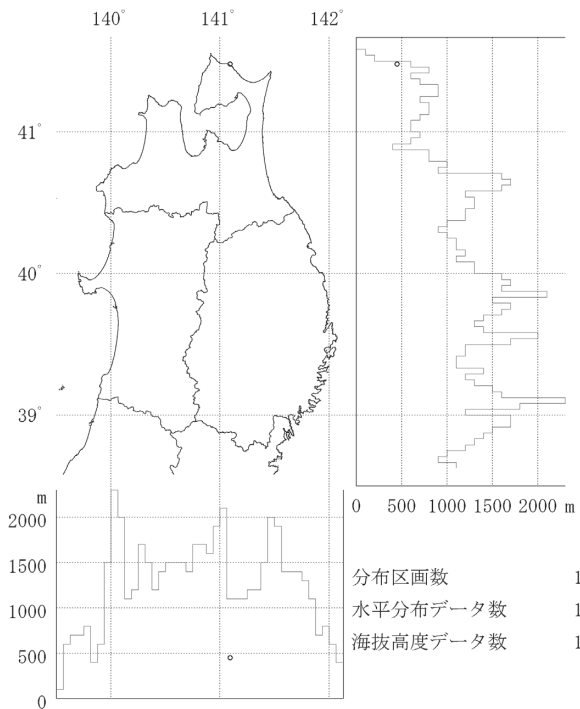


図69. *Spuriopimpinella koreana*

ヒカゲミツバ

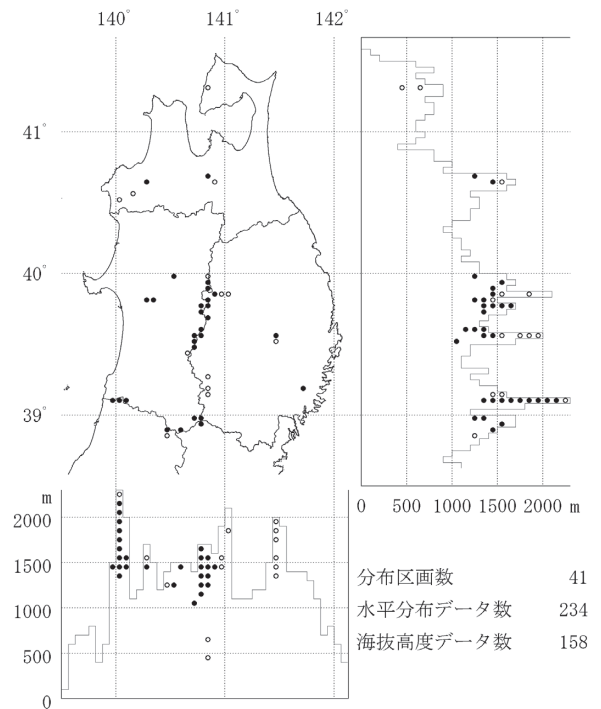


図70. *Tilingia ajanensis*

シラネニンジン

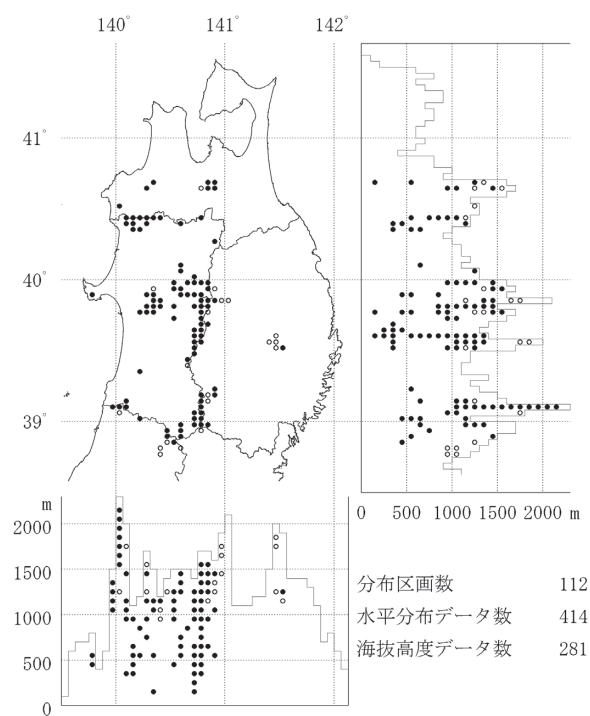


図71. *Tilingia holopetala*

イブキゼリ

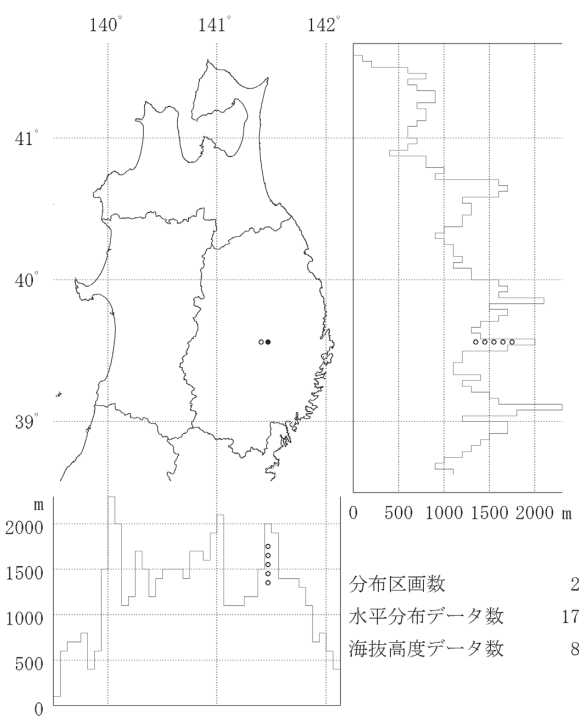


図72. *Tilingia tachiroei*

ミヤマウイキョウ

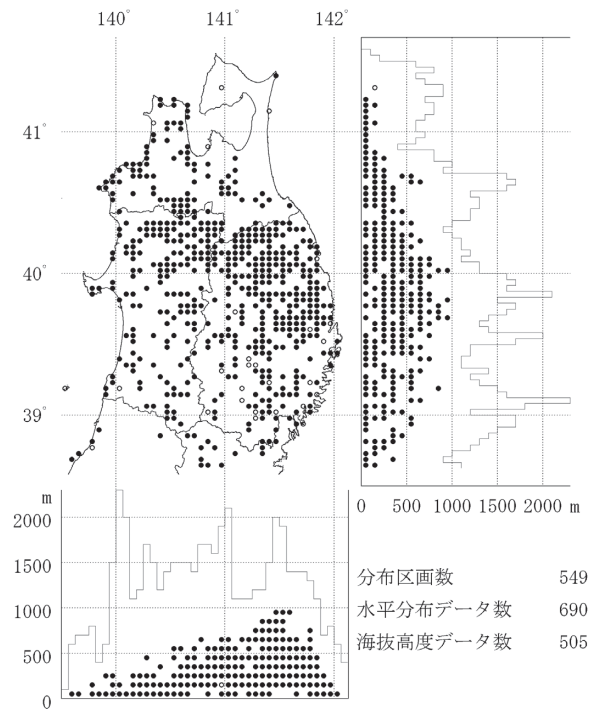


図73. *Torilis japonica*

ヤブジラミ

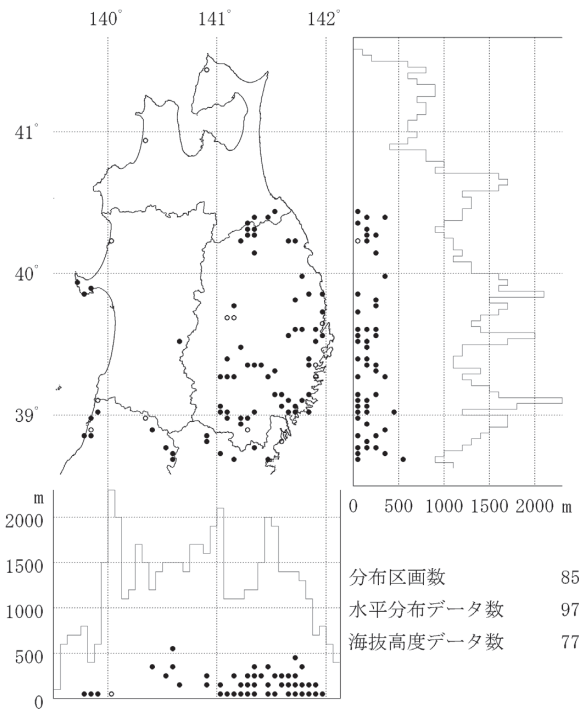


図74. *Torilis scabra*

オヤブジラミ